

山口大学レポート

2020

地域に愛される
山口大学を目指して



山口大学レポート 2020

Contents

02 学長挨拶

03 特集記事

13 ビジョン・実績

- ・山口大学の歴史・明日の山口大学ビジョン2015
- ・教育
- ・研究
- ・地域連携
- ・GLOBAL化
- ・ダイバーシティ

37 学部トピックス

41 附属病院の取組

43 ガバナンス・財務データ

- ・ガバナンス
- ・貸借対照表
- ・損益計算書
- ・財務指標
- ・学生1人当たり年間コスト
- ・財務情報の推移
- ・学部・研究科等別の財務情報

53 山口大学の気になる数字

55 山口大学基金

編集・発行 山口大学レポートプロジェクトチーム
発行年月 2020年11月

山口大学レポートに関するお問い合わせは
財務部財務課まで

ke068@yamaguchi-u.ac.jp

山口大学WEBサイト
<http://www.yamaguchi-u.ac.jp>



表紙写真：ケヤキの小径（吉田キャンパス）

山口大学理念
発見し・はぐくみ・かたちにする
知の広場



大学会館前の丘（吉田キャンパス）

学長挨拶

山口大学は、1815(文化12)年、長州藩士・上田鳳陽によって創設された私塾・山口講堂を前身とし、明治・大正期の学制を経て、1949(昭和24)年に、平和と繁栄を願い、地域における高等教育及び学問研究の中核たる新制大学として創設されました。本学は、チャレンジ精神に満ちた独特の風土により明治維新の原動となった地にある大学です。

この精神は、大学の理念「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」に受け継がれ、そして、今、本学は9学部8研究科からなる学生数1万人を超える地域の基幹総合大学として、教育・研究・地域貢献の3本の矢により地域の発展、日本そして世界の発展に貢献することを目指しています。

今年は新型コロナウイルスの感染拡大により、全世界が未曾有の被害に見舞われています。本学においても、緊急措置として海外に留学している学生全員の帰国指示や、生活が困窮する学生への経済的支援を行い、自粛生活が続く中での学生への心のケアを行ってまいりました。他方、卒業生や企業、地域の皆様からは、温かい励ましの言葉とともに多くのご寄附を賜り、たくさんの元気と勇気をいただきました。前述の学生への経済的支援も皆様からのご支援があったからこそ実現できたと、あらためて感謝申し上げます。

ウィズコロナ、ポストコロナの社会において、他を思いやる心を持ち地域社会や世界に羽ばたいていくことができる学生の教育こそが、今、求められているものと認識し、全学で誠心誠意取り組んでまいります。

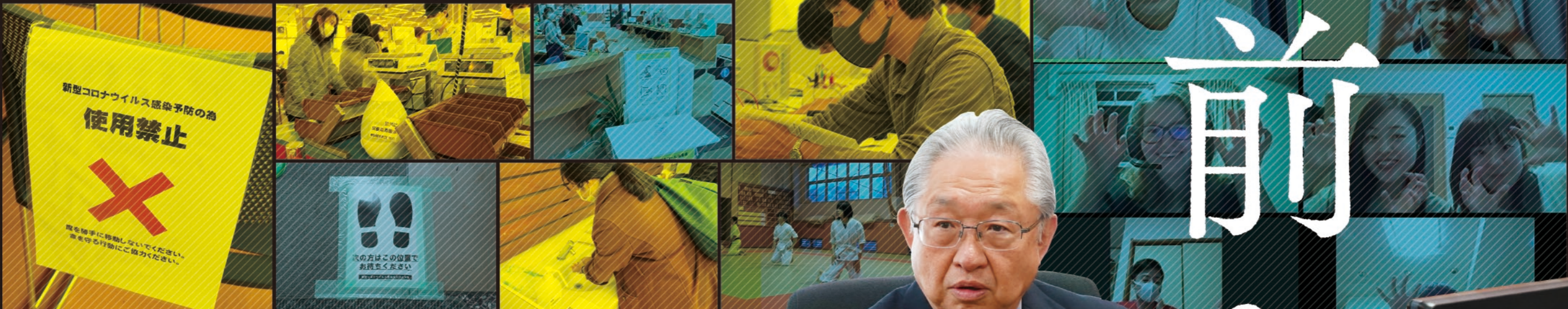
今年度も、山口大学のことを皆様にわかりやすくお伝えするため、本学が取り組んでいる教育研究の成果と財務情報をリンクさせた「山口大学レポート2020」を発行しました。このレポートが、山口大学の活動をよりご理解いただくための資料となれば幸いです。

本学は、「地域に愛される山口大学を目指して」、皆様とともに歩んでまいります。引き続き本学の活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

山口大学長 岡 正朗

Covid-19

山口大学 Report 新型コロナウイルス感染症対策特集



- 01 学生の安全を最優先に！
- 02 学生の学びを止めるな！～ 遠隔授業導入の覚悟と工夫～
- 03 目の前にある今できることを、全力で！
- 04 学生と大学がつながる支援でもっと前へ！
- 05 皆様から届く、多くの“元気”と“勇気”の支援！
- 06 安全・安心なキャンパス！
- 07 新型コロナウイルス感染症に関する対応経過について



Covid-19

山口大学 Report 新型コロナウイルス感染症対策特集

No. _____
Date / / _____

学生の安全を最優先に！

新型コロナウイルス感染症や海外からの情報が限られる中、学長の「**学生の安全を絶対に守る**」との強い信念と指示のもと、学生の動向を正確に把握し、学生・保護者・関係機関との連絡を密にして、学生の安全確保に向けた対策を迅速に開始しました。

□中国から学生が無事帰国！

2020年1月、中国で病原体不明の肺炎が複数発生していることが報じられ、1月16日には国内初の感染者が確認されました。

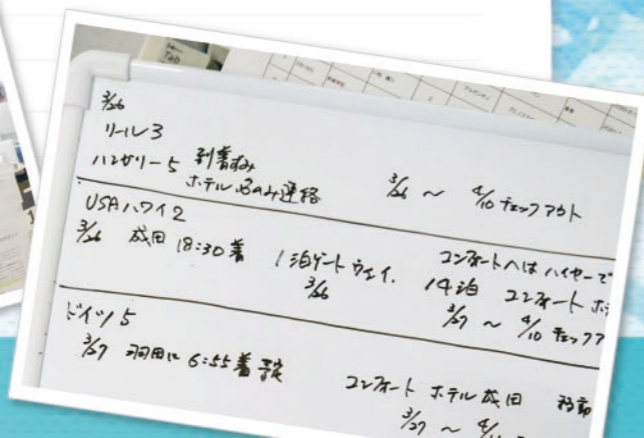
本学では、学生の安全を絶対に守るとの強い信念のもと教職員が一体となり、中国に留学中の学生の情報を素早く正確に把握し、学生の安全確保と帰国の手続きを確実に進めました。刻々と状況が変わる中、外務省や在北京日本大使館と連絡を取りながら、**2月7日、最初の2名が政府チャーター機第4便で無事帰国**しました。

□海外派遣学生全員が無事帰国！

感染は世界に広がり、3月には欧州全域が不要不急の渡航停止地域となりました。本学は海外の感染状況を見極めつつ、3月17日に留学中の学生への帰国指示と、それに伴う費用を大学負担とすることを決定しました。その上で、緊急度の高い地域から、国際交流協定校と調整しつつ、在外日本公館と連携し、帰国便の緊急手配を進めました。保護者にも協力を求め、3月末までに韓国、欧州、米国、タイ、マレーシア、オーストラリア、台湾に滞在する学生に順次帰国の指示を出しました。4月15日に台湾から学生が帰国し、これにより**海外に派遣していた学生全員の帰国**が、感染者を出すことなく、無事完了しました。

□学生・受験生へ最新の情報を発信！

1月30日に世界保健機関が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言したことを受け、翌31日から学生と教職員に対して感染予防の徹底や、海外渡航に関する注意喚起、最新の関連情報の提供等を大学ホームページで「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関する注意喚起について」と題して開始しました。2月3日には中国への不要不急の渡航の中止、帰国時の届出、帰国・入国後の経過観察と14日間の自宅待機の徹底について周知しました。また、折しも前期日程試験を控えた時期であったことから、受験生に対する注意喚起も発信しました。**注意喚起については、最新情報をもとに更新を重ね、今も継続して実施**しています。



Covid-19

山口大学 Report 新型コロナウイルス感染症対策特集

No. _____
Date / / _____

学生の学びを止めるな！～遠隔授業導入の覚悟と工夫～

□議論を重ね、前期授業の開始を決定！しかし、…

3月における山口県内の感染者数は少なく、感染者も全て経路が特定できていました。この状況により、対面での授業開始に向けて、慎重に議論を重ね、学生には「Stay in Yamaguchi & Ube!」のフレーズとともに、3月中旬からキャンパスのある山口市、宇部市に滞在して14日間の自宅待機を要請しました。その上で、「密閉・密集・密接」の3密を避けるなどの感染防止対策を徹底し、前期授業を4月13日から開始することを決定しました。しかし、同日、**山口市内で感染経路が特定できない感染者が発生**し、再び市内小中学校の臨時休校が発表されました。本学も議論を重ねた結果、学生の安全・安心を最優先に考え、速やかに翌14日からは**遠隔授業に切り替える決定**をしました。

その後は、「実験等の対面授業実施のガイドライン」を定め、山口県の緊急事態宣言解除後の**5月18日より遠隔授業での実施が難しい実験・実習・演習などから、学長の許可制により順次対面授業を再開**しました。

このように、本学では学生の安全・安心を最優先に考えつつ、非常事態の中でも大学の使命である教育が実施できるよう努力を続け、学生の学びを止めないよう迅速かつ果敢な決断を行ってきました。

□授業支援対策チームの設置！

遠隔授業の実施に当たっては、教員の遠隔授業に関する専門的な知識・技術が必要となるだけでなく、そのための準備や環境が必ずしも十分とは言えない状況であったことから、相当な覚悟を持って対応する必要がありました。そこで、学長の指示により、教育・学生担当副学長を中心とした**教職員による「授業支援対策チーム」を立ち上げ、遠隔授業の実施に不安を抱える教員の技術的なサポート等を行う体制を構築**しました。

遠隔授業は、①同時双方向型 ②録画視聴のオンデマンド型 ③資料・課題提示型の3つの手法を整備するとともに、新たに「遠隔授業ポータルサイト」を整備し、各種システム等にアクセスできるリンクのほか、授業履修者のみのアクセス制限等によるセキュリティの確保など、学生の利便性の向上を図りました。また、Wi-Fi環境が不十分な学生のために、構内にアクセスポイントを設けて遠隔授業を受講するためのスペースを開放するなど、学習環境を整備しました。6月に実施した**遠隔授業に関するアンケート結果では、約9割の学生が「問題は感じていない」「あまり問題は感じていない」と回答**しています。



Covid-19

山口大学 Report 新型コロナウイルス感染症対策特集



目の前にある今できることを、全力で！

□卒業生・新入生へのエール配信

3月2日には政府から全国の小中高等学校の臨時休校が要請されるなど、国内での警戒が高まりました。3月の「令和元年度卒業式・修了式」について、当初、感染防止対策に万全を期して参列者・時間などの規模を縮小した対面実施を模索しましたが、最後は「今、学生のために何が最善か。4月から企業、医療現場、学校など社会の一翼を担う卒業生に、感染のリスクを負わずことはできない」との判断により、「中止」という苦渋の決断をしました。

また、4月の「令和2年度入学式」でも状況は改善せず、対面での実施を断念しました。一方で、卒業生と入学生のために今できることは何か、教職員が懸命に心一つにして考えた結果、対面での式典に代えて、**本学WEBサイトに式典の特設サイトを開設し、学長の祝辞をはじめ卒業生や入学生へのエールを綴った動画を配信しました。その後、状況は改善され、9月の学位記授与式・卒業式は対面で実施することができました。**

(学長から卒業生への力強い「エール」の一節)

困難に出会った時は、常に真面目に、愚直に正面を見据え、王道を行くことを勧めます。たとえ回り道であろうと、自分が胸を張って歩む道、王道を進んでください。必ず道は開かれます。へこたれないで、チャレンジし、勇気をもって困難に立ち向かってこそ、満足できる人生が送れるはずです。

□コロナ禍での新たなチャレンジ！

2月以降は、公開シンポジウム、一般市民対象の公開講座やセミナー、高校生を対象とした出前講義などの対面実施が次第に困難となっていきました。そうした状況の中で、緊急事態宣言発令中の4月にいち早くオンラインによる出前講義を実施し、その後もセミナーなどを随時オンラインに切り替えて実施していきました。新型コロナウイルス感染症との戦いの中で急激に発達した「オンライン」という慣れない手法での実施でしたが、目の前にある今できることを、全力で取り組むという思いでのチャレンジでした。

10月以降は、学生の地元定着率を促進し、県内就職率の向上に繋げることを目的とした「Jobフェア2020」などのイベントを対面で実施するとともに、同時にWEB配信も行うなど、不慣れだったオンラインを当たり前のように同時併用する、新たなハイブリッド型の情報発信の取組も進めています。

□初！「オンライン」オープンキャンパスの試み

8月のオープンキャンパスは、例年の来訪スタイルから初めてオンラインのみでの実施に変更し、各学部等が様々な知恵と工夫を凝らし約450ものコンテンツを通して、本学の入試、教育・研究、キャンパスライフなどについて情報発信を行いました。アンケートでは、「動画で大学の雰囲気分かって参考になった」「オンラインで質問に答えていただき、モチベーションアップにつながった」などの多くの熱いコメントをいただき、今できることを教職員が一丸となって全力で取り組むことで、コロナ禍においても本学を理解していただけたのではないかと考えています。また、「実際にキャンパスを訪問してみたくなかった」などのコメントも寄せられました。今後、ウィズコロナの中においては、リアルとバーチャルをいかにうまく組み合わせていくかということが、重要なポイントになることを感じさせてくれました。



Covid-19

山口大学 Report 新型コロナウイルス感染症対策特集

No. _____
Date / /

学生と大学がつながる支援でもっと前へ！

□「山口大学基金」1億円の支援！ ～ いま学生のために使わなくて、いつ使うのか～

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、学資負担者の家計の急変やアルバイト収入減により学生の生活が困窮しているとの多くの情報が寄せられました。学長から「山口大学基金をいま学生のために使わなくて、いつ使うのか」という力強い発言がありました。学生が安心して生活が送れるよう、そして、安心して学べるよう、緊急措置として、山口大学基金の1億円を原資に、返済を要しない「**新型コロナウイルス対策緊急学生生活支援給付型奨学金**」(学生1人当たり10万円(2万円/月×5か月)、1,000人対象)を創設し、856名(うち留学生67名)の学生に経済的支援を行いました。また、授業料免除や授業料納入猶予を行うとともに、6名の学生に返還不要の前期分授業料(267,900円/人)を支援しました。

支援を受けた学生からは「健康的な生活が送れた」「コロナの影響を受ける中で変わらず勉学に励むことが出来た」など多くの感謝の声が届いています。

□学生一人ひとりに寄り添って ～ 学生と大学が「つながる」支援へ～

4月16日、政府は緊急事態宣言の対象地域を全都道府県に拡大することを発表しました。これを踏まえ、本学では「学生の入構」は限定的な場合を除き禁止としました。しかし、社会的にも不要不急の外出の自粛が推進される状況であったため、**保護者や近親者のもとを離れ、友人との交流もままならない生活を送る学生一人ひとりに対してケアを行う必要**がありました。生活支援のため、学生食堂や図書館など学内の諸施設は、感染状況に応じて様々な対策を講じた上で、可能な限り利用できるようにしました。

健康及びメンタル相談に関しては、保健管理センターにおいて新型コロナウイルス感染症に関連した心と体の健康相談を開始しました。また、各学部には教職員による「**学生ケアチーム**」を設置するとともに、先輩学生による「**新入生サポーター**」を配置し、学生の健康状況、学習状況、心のケアを担当してもらいました。学生支援センターでは、日常生活が大きく変化し、不安やストレスを感じている在学・新入生に寄り添うため、学内教職員による動画メッセージを載せた**学生支援センター通信「つながる」**を配信しました。

このように、学生一人ひとりが持つ課題に対して、**教職員、そして学生が一体となって、寄り添い、つながる支援を行い、この難局で学びをあきらめる学生を絶対に出さないという強い信念を持って、前へ進むことができる取組を積極的に展開しました。**



Covid-19

山口大学 Report 新型コロナウイルス感染症対策特集



皆様から届く、多くの“元気”と“勇気”の支援！

卒業生や企業・団体の皆様、地域や学生のご家族の皆様、多くの方々から、心温まるたくさんのご支援を賜り心より感謝申し上げます。

□海外・国内から多くのマスクが届きました！

山口大学海外同窓会上海支部や国内外に在住する卒業生(中国人留学生)108名から、多くのマスクが届けられました。マスクには、留学中お世話になったことへの恩返しの想いや、教職員の新型コロナウイルス感染症予防に役立てて欲しいとの想いが込められ、「祝福宇宙!宇宙よ 私たちの第二の故郷へ いつでも心の中」などのメッセージが添えられていました。この他、附属学校や医学部附属病院にも、地域の皆様、企業・団体・医療機関の皆様など多くの方々からマスクが届けられ、全部で約125,000枚のマスクのご寄附をいただきました。

□学生への心温まる多くのご支援!

NPO法人「フードバンク山口」様から、ロングライフパン1,400個、さんま缶960缶、ミネラルウォーター1,008本を寄贈いただき、JAグループ山口様からは、県産米20俵(1,200kg)を「将来を担う大学生の皆さんは大変貴重な人材。農家の気持ちが込められている県産米を食べて元気を取り戻してほしい」との励ましの言葉と共に寄贈いただきました。これらは、いずれも3キャンパスで学生に提供させていただきます。学生からは「ご支援いただき有難うございます!! 夢に向かって頑張ります!!」など、多くの感謝の言葉が寄せられています。また、山口市内在住のご夫妻からも「母国を離れ一生懸命学んでいる時に、コロナ禍で不便な思いをしているのでは・・・」と、留学生15名にお米や天然水、マスクなどの9点セットのご寄附をいただきました。

□医療従事者らに子どもたちからの温かいメッセージ!

医学部附属病院に、地域の皆様、企業・団体・医療機関の皆様から、マスクのほか、フェイスシールド、ガウン、消毒用アルコールなどの多くの医療資材の提供や、地元の子どもたちから「Thank you All Front Line Workers!!」などと書かれた励ましのメッセージをいただきました。

□「山口大学基金」にも多くのご支援が寄せられています!

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により生活が困窮する学生への応援資金として「給付型奨学金」にご寄附をお願いし、150名の方々から約790万円(10月現在)のご支援がありました。また、コロナ禍での学生の修学支援や教育・研究支援等にもご寄附いただきました。皆様のご厚意は、学生や研究者支援のために大切に活用します。あらためて感謝申し上げます。



Covid-19

山口大学 Report 新型コロナウイルス感染症対策特集



安全・安心なキャンパス!

本学においては、新型コロナウイルス感染症の発生以来、学生の安全・安心を最優先に考え、教職員と学生が一体となって、様々な知恵と工夫をこらし、**キャンパス内では1人の感染者も発生させることなく、様々なチャレンジを行いながら困難を乗り越えてまいりました。**これはまさに大学の理念「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を実践しているものです。安全・安心な教育研究環境を継続して提供できていることは本学の誇りであり、今後も引き続き、この環境を維持・継続していくことが教職員の使命の一つと考えています。

□後期から対面を主として授業を実施!

夏季休業が終わり、10月1日から後期授業がスタートしました。本学は、対面による学生同士・教職員との人的な交流等を大学での学びにおいて重要な要素と位置付けており、感染状況を見極めつつ、安全に配慮した対面授業を主として実施しています。

その上で、今後においては、コロナ禍で学んだオンラインの長所と、対面の長所を融合させ、学びの質のさらなる向上に向けた新たな取組を展開するなど、コロナ禍をバネにして前に進んでまいります。

□学生とともに歩む!

学生の授業や生活上の不安・悩みなどに対応するため、各学部・研究科での支援体制を前期から継続し、教職員・先輩学生などとの交流の機会を持てるようにしています。部活動などの課外活動は、学生公認団体との協議を重ねて共に設定したガイドラインに基づいた活動が実施されています。本学は、引き続き授業や学生生活に関するアンケートなどにより得られた学生の意見を取り入れながら、より良い教育環境を目指していきます。

□学生による社会貢献!コロナ禍でも前へ

ウィズコロナの状況において、学生自らが、社会に貢献できることはないかを問い、オンラインを活用して大学での学びと社会を繋ぐ取組が自主的に生まれています。

4月には工学部の学生らが県内外の有志と開発・運営する「**新型コロナウイルス感染症対策サイト**」が山口県の公認サイトとなりました。また、教育学部の学生らによる「**オンライン学童保育**」や教育学部と国際総合科学部の学生らによる「**ヒミツキチ**」は、休校中の子供達や保護者に対するコミュニケーションの場を提供しました。さらに、医学部では、学生が呼吸器・感染症内科の授業の一環として「**新型コロナウイルス感染症対策動画**」を制作し、YouTubeで感染予防を呼びかけました。

このように学生達の力が、社会を前に進める原動力となっており、今後の活動が益々期待されます。

今日の一歩、明日の一歩。コロナ禍でも前へ、前へ。



新型コロナウイルス感染症に関する 対応経過について

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
									<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度後期授業開始 令和2年度後期授業実施のガイドライン決定（主として対面授業実施） 課外活動の制限を緩和 オンラインオープンキャンパス開催 総合科学実験センター遠伝子実験施設（小串地区）にて、新型コロナウイルスに関するPCR検査受託業務を開始（後日、予防保健協会と契約締結） 令和3年度山口大学入学者選抜における新型コロナウイルス感染症の影響に伴う試験実施上の配慮について」を周知 「大学の安全安心の確保と今後の対応について（ご報告）」を周知※6 学内対応レベルを緊急事態宣言下と同等の内容に引き上げ ・自宅待機中の学生に対する試験等の代替措置の配慮等について決定 「新型コロナウイルス感染者の発生について」を周知（学外で陽性者と偶然に居合わせたことによるもの）※5 課外活動の再開基準を設け、一部再開 「緊急事態宣言解除に伴う本学の対応について」を更新※3 「新型コロナウイルス感染症に関する注意喚起について（第15報～第16報）」を更新※1 「コロナウイルス対策緊急学生生活支援給付型奨学金」第1回認定者へ給付 「緊急事態宣言解除に伴う本学の対応について」を周知※3 「新型コロナウイルス感染症に関する注意喚起について（第14報）」を更新※1 「緊急事態宣言対象地域のうち、山口県を含む全国39県の緊急事態宣言を解除 実験等の対面授業実施のガイドラインを策定 ・「緊急事態宣言に伴う本学の対応について」を更新※3 「新型コロナウイルス感染症に関する注意喚起について（第9報～第13報）」を更新※1 「コロナウイルス対策緊急学生生活支援給付型奨学金」新設
			<ul style="list-style-type: none"> 「新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた就職活動について」を周知※4 「緊急事態宣言に伴う本学の対応について」を周知※3 ・キャンパスの入構制限を実施 政府は緊急事態宣言の対象を全都道府県に拡大 帰国指示したすべての派遣留学生の帰国が完了 遠隔授業に切り替え 令和2年度前期授業開始 課外活動を当面の間、全面禁止 オンライン授業支援のための授業支援対策チームの設置 入学式特設サイト開設 「新型コロナウイルス感染症に関する注意喚起について（第6報～第8報）」を更新※1 政府は新型コロナウイルス感染症特別措置法に基づく「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置 令和2年度前期授業開始日を「4月10日（金）」から「4月13日（月）」へ変更 卒業式・修了式特設サイト開設 入学式の中止を決定 ・学生・教職員の海外渡航を禁止 派遣留学生の帰国を決定（経費は全額大学負担） 大学院学位記授与式をキャンパスを分散して実施 後期日程における新型コロナウイルス感染症患者への特例措置の実施を決定※2 卒業式・修了式の中止を決定 「新型コロナウイルス感染症に関する注意喚起について（第2報～第5報）」を更新※1 受験生向け通知「新型コロナウイルス関連肺炎等に関する注意喚起」を周知 「新型コロナウイルス感染症に関する注意喚起について（第1報）」を周知※1 WHOから中国武漢で原因不明の肺炎発生を発表 	<ul style="list-style-type: none"> 「新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた就職活動について」を周知※4 「緊急事態宣言に伴う本学の対応について」を周知※3 ・キャンパスの入構制限を実施 政府は緊急事態宣言の対象を全都道府県に拡大 帰国指示したすべての派遣留学生の帰国が完了 遠隔授業に切り替え 令和2年度前期授業開始 課外活動を当面の間、全面禁止 オンライン授業支援のための授業支援対策チームの設置 入学式特設サイト開設 「新型コロナウイルス感染症に関する注意喚起について（第6報～第8報）」を更新※1 政府は新型コロナウイルス感染症特別措置法に基づく「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置 令和2年度前期授業開始日を「4月10日（金）」から「4月13日（月）」へ変更 卒業式・修了式特設サイト開設 入学式の中止を決定 ・学生・教職員の海外渡航を禁止 派遣留学生の帰国を決定（経費は全額大学負担） 大学院学位記授与式をキャンパスを分散して実施 後期日程における新型コロナウイルス感染症患者への特例措置の実施を決定※2 卒業式・修了式の中止を決定 「新型コロナウイルス感染症に関する注意喚起について（第2報～第5報）」を更新※1 受験生向け通知「新型コロナウイルス関連肺炎等に関する注意喚起」を周知 「新型コロナウイルス感染症に関する注意喚起について（第1報）」を周知※1 WHOから中国武漢で原因不明の肺炎発生を発表 					

※（青字）政府等の動き

- ※1 学生・教職員に向けた、新型コロナウイルス感染症に関する感染防止対策や国内外の移動、相談体制等の留意事項を明記。
- ※2 受験生に向けて、新型コロナウイルス感染症に罹患し、治癒していない場合の措置として、受験機会確保の観点から、センター試験及び調査書等により別途合否判定を行うことを公表。
- ※3 学内外に向けた、新型コロナウイルス感染拡大防止のための、授業や教育・研究活動、業務、入構制限、課外活動等に関する対応を公表。
- ※4 企業・官公庁等の採用担当者に向けた、就職・採用活動による感染防止の配慮依頼及び学生に向けた、就職活動に当たっての留意事項を明記。
- ※5 感染経路や保健所等の山口県関係機関との調査状況、学内の活動は緊急事態宣言下での対応に準ずること等を公表。
- ※6 PCR検査で濃厚接触者全員の陰性が確認され、構内の安全安心が確保されたため、緊急事態宣言解除後の本学の対応に戻すことを地域の皆様や学外に向けて報告。



詳細ホームページ



http://www.yamaguchi-u.ac.jp/_8288.html

Vision Achievements

ビジョン・実績



地域とともに歩んできた

～山口大学の歴史～

江戸時代の長州藩士・上田鳳陽は、当時の山口には学問所がなく、書籍も乏しかったため、学舎の建設を發起する。鳳陽は「山口のまちに武芸の稽古場、馬場はあるものの、いまだに本格的な学問所がないため、自力でも学問所を開設したい」と藩に願い出た。こうして1815(文化12)年山口大学の淵源にあたる「山口講堂」が設立され、以来、地域とともに山口県における教育拠点として発展していく。

1815(文化12)年 山口講堂開設

1845(弘化2)年 山口講習堂と改称

1863(文久3)年 山口明倫館と改称

1870(明治3)年 山口中学校と改称

1886(明治19)年 官立山口高等中学校創設

1894(明治27)年 山口高等学校と改称

1905(明治38)年 山口高等商業学校と改称

1919(大正8)年 官立山口高等学校創設

1944(昭和19)年 山口高等商業学校を山口経済専門学校と改称

1949(昭和24)年 山口高等学校、山口師範学校、山口青年師範学校、山口経済専門学校、宇部工業専門学校、山口獣医畜産専門学校を包括して山口大学を創設
文理、教育、経済、工、農の5学部を設置

1964(昭和39)年 山口県立医科大学を国立移管して医学部を設置

1973(昭和48)年 平川地区への統合移転完了

1978(昭和53)年 文理学部を改組して人文学部、理学部を設置

2004(平成16)年 国立大学法人山口大学設立

2012(平成24)年 共同獣医学部設置

2015(平成27)年 国際総合科学部設置



山口講堂に掲げられていた木製の扁額(横額)



開学式当日の山口大学1949(昭和24)年



移転当初の吉田キャンパス1967(昭和42)年頃

～そして未来へ～

明日の山口大学ビジョン 2015

～地域とともに 時代とともに 維新の息吹を 今 山口から世界へ～

未来

山口大学は、中世の大内文化に始まる洗練された伝統と、明治維新以降の革新的な「維新マインド」を背景に、大きなグローバル化の波や多様性を見据え、2025年には、留学生を含む全ての大学人と地域の人々が、互いの歴史・文化・民族・言語・宗教など、多様性を許容し、それぞれが能力を発揮することにより新たな価値観を創造する、「ダイバーシティ・キャンパス」を目指します。



学生とともに成長する 社会が求めるグローバル人材の育成

山口大学の教育理念は“発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場”です。
この“知の広場”において、「課題解決力」、「自己研鑽力」、「チャレンジ精神」などの「人間力」を備え、「国際理解力」と「高い専門能力」を持ち、イノベーションを生み出すことができる人材を育成します。

社会の期待に応える世界に通用する教育を展開する

新型コロナウイルス感染症の流行により、世界は一変し、私たちは否が応でも「新しい日常」を歩まねばならなくなりました。様々な課題を解決するため、科学技術の英知の結集が強く求められているとともに、人文学・社会科学の知見についても、経済・社会的な課題の解決に大きな役割が再認識されています。

また、世界においては、急速なICT技術の発達、グローバル化が進み、持続可能でインクルーシブな経済社会システムであるSociety5.0の実現に向けた取組が加速し、知識集約型社会への急速なパラダイムシフト（価値観などの劇的な変化）が起こっています。その一方で、我が国では、少子高齢化による生産年齢人口の減少や過度な一極集中などによる地方の活力の低下などの課題に直面しています。

山口大学では創基200周年を迎えた2015年に10年後の2025年を見据えた「明日の山口大学ビジョン2015」を策定し、教育については「社会が求めるグローバル人材の育成」を行うため、以下のビジョンを掲げています。

- 大学教育の根幹をなす学士課程教育
- 専門性と国際性あふれる大学院教育
- 人材育成のための学生支援の充実
- 多様な学生を受け入れるための入試改革
- 本学独自の地域学の構築「山口学」



授業風景



留学生と交流

全国初！全学生への知的財産教育必修化及び 全国唯一の拠点活動！

グローバルな社会で活躍するための人材育成

2013年度に、全学部生と全大学院生に全国で初めて、**知的財産教育を必修化**しました。それとともに各学部の専門性や必要性に適合した専門教育科目を導入し、2019年度までに、専門教育につながるための展開科目を開講しました。

その結果、文系、理系を問わず、知的財産に関する知識を全学生が持ち、**グローバルな社会で活躍するための人材**を輩出しています。

【知的財産教育関連科目の開設科目数及び受講者数】

区分	2015	2016	2017	2018	2019
共通教育	10	11	11	11	11
専門教育	3	6	8	10	10
受講者数	2221	2535	2585	2792	2800

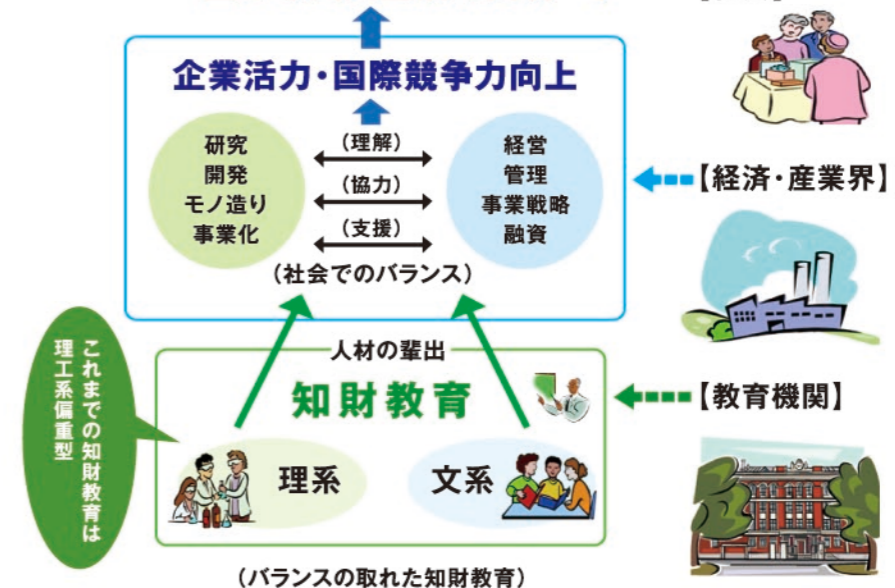
※専門教育については、2015年に国際総合科学部及び経済学部、2016年に工学部、2018年に教育学部に開設

山口大学の先進的知財教育の取組を全国のモデルに

本学の特徴ある実践的知財教育の実績が評価され、2015年度に全国で唯一、文部科学大臣より「**知的財産教育共同利用拠点**」に認定され、本学の知的財産教育機能の強化と併せて、山口大学から全国の大学等に授業内容や教育方法の改善を図る研修及び研究を提供しています。

大学初 文系・理系のバランスをとった知財教育

豊かな国民生活の実現 ←-----【社会】



(バランスの取れた知財教育)

山口大学のデータサイエンス教育の取組 ～Society5.0の実現のために～

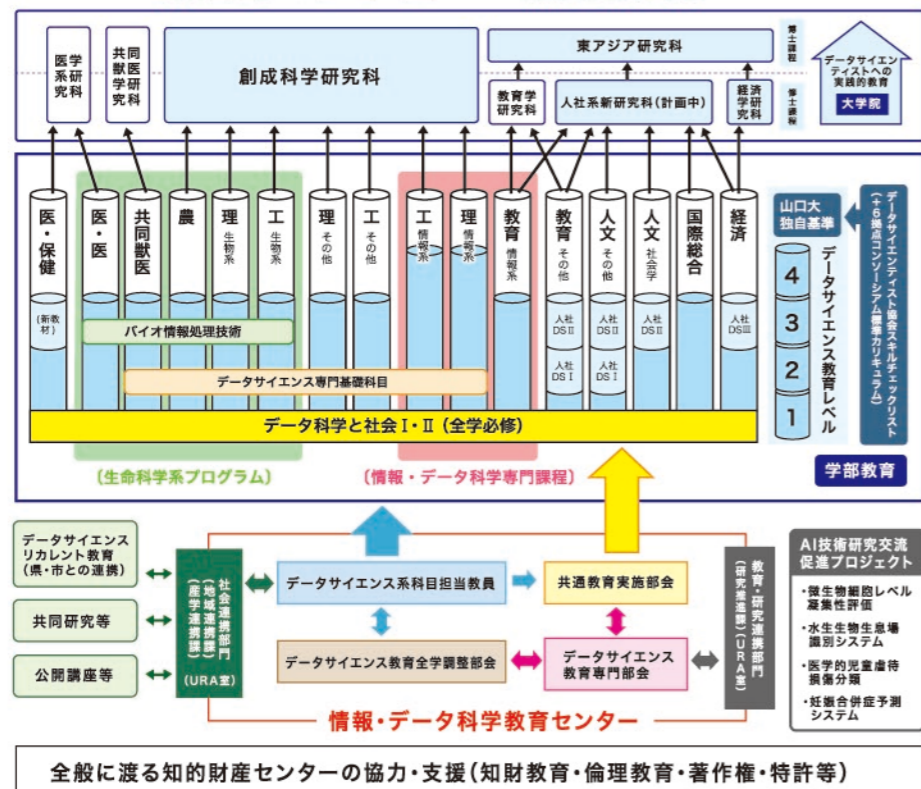
情報・データ科学教育センター
【URL】 <http://data-sci.epc.yamaguchi-u.ac.jp/>



山口大学では、2020年4月、数理的思考を備え、データ分析・活用できる人材を育成し、社会の課題解決・発展に資することを目的として、全学のデータサイエンス教育の管理、運営体制の整備及び組織的指導体制を確立するために、**情報・データ科学教育センター**が設置されました。

センターでは、学部共通教育・専門教育におけるデータサイエンス教育の企画運営及び連絡調整を行うとともに、社会連携活動や研究支援にも力を入れています。

【山口大学のデータサイエンス教育実施体制】



教育課程の取組 【全学部に生じたデータサイエンス教育の促進】

共通教育では、「データ科学と社会Ⅰ、Ⅱ」を必修科目とし、専門科目では、各学部のカリキュラムポリシーに応じた到達目標を設定し、データサイエンス教育の導入に取り組んでいます。

社会連携部門の取組 【山口県及び県内企業との連携事業(データサイエンスリカレント教育)】

AI、IoT、ビッグデータの進展に伴い、企業活動においてもデータサイエンスの活用が強く求められています。センターでは、山口県と連携し、県内企業を対象にデータサイエンス講座(リテラシーコース【学習時間6時間】、マスターコース【学習時間90時間】)を開設し2020年9月からスタートしました。

教育・研究連携部門の取組 【AI技術研究交流促進プロジェクト】

データサイエンスの教育・研究を定着させるためには、人工知能技術(AI技術)の利用者・理解者を増やし、有用性を広めていき、「データサイエンス文化の醸成」を図っていく必要があります。

「AI技術研究交流促進プロジェクト」は、山口大学でAI技術の研究を行っている教員と、他分野でデータを扱った研究を行っている教員の共同研究を促進させる制度です。

国際総合科学部の特徴ある教育プログラム



国際総合科学部(FGSS:Faculty of Global and Science Studies)では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、秋期に海外に学生を派遣する留学を実施することが困難な中、**留学に変わる魅力を国内で実現するプロジェクト**を始動します。

FGSS2年生と全学の派遣留学予定者が一緒に学ぶ!!

3つの演習科目で単位認定

グローバルコミュニケーション演習 -コミュニケーションツール第2外国語を学ぶ-

目指すものその1:国、地域の言語を学び、さらにその言語を用いる社会の背景、文化、思想に触れる

中国語(中国/台湾)、韓国語、ドイツ語、スペイン語、フランス語のクラスを開講し、日常会話レベルの習得にとどまらず、**言語使用のありかたや背景の文化、思想に対する、より深い興味・関心**を喚起します。
授業はネイティブ教員により行われ、FGSS教員が全クラスを統括的にコーディネートし、今後の自律学習スキルを伝えられるような授業を実施します。

文化・社会論演習 -国際文化、思想、国際政治など異文化を学ぶ-

目指すものその2:国、地域の社会・文化・経済に関するフィールドワークの実施を通じたデザイン思考

本来留学予定であった各地域の文化を学ぶための授業を他学部協力のもと、FGSS教員がコーディネーターとなり実施します。
現地にゆかりのあるゲストスピーカーと留学経験のある学生が授業に参加し、春期留学に備え、その地域に対する理解をより深めることを目指します。

科学技術論演習 -科学技術政策、SDGs、STEAM教育、知的財産等を学ぶ-

目指すものその3:国際社会で活躍するための知識・技能の修得

新しい社会が直面するグローバルな課題に対して、総合的見地から考察する能力を深めるためのクラスを他学部協力のもと開講します。
FGSS教員、学内リソースを活用しながら原則英語で**SDGs^{※1}、STEAM教育^{※2} 知的財産など科学技術政策等**の特色ある内容の知識を習得すると同時に、英語でのプレゼンテーション技能等を養います。

※1 SDGsとは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標。

※2 STEAM教育とは、科学・技術・工学・芸術・数学の5つを関連させSociety5.0に対応できる人材を育成する教育。

FGSSは、これからの新しい価値、新しい社会を創造する グローバルスペシャリストを育てます!!



新しい価値を創造する 文系と理系の融合によるイノベーションの創出

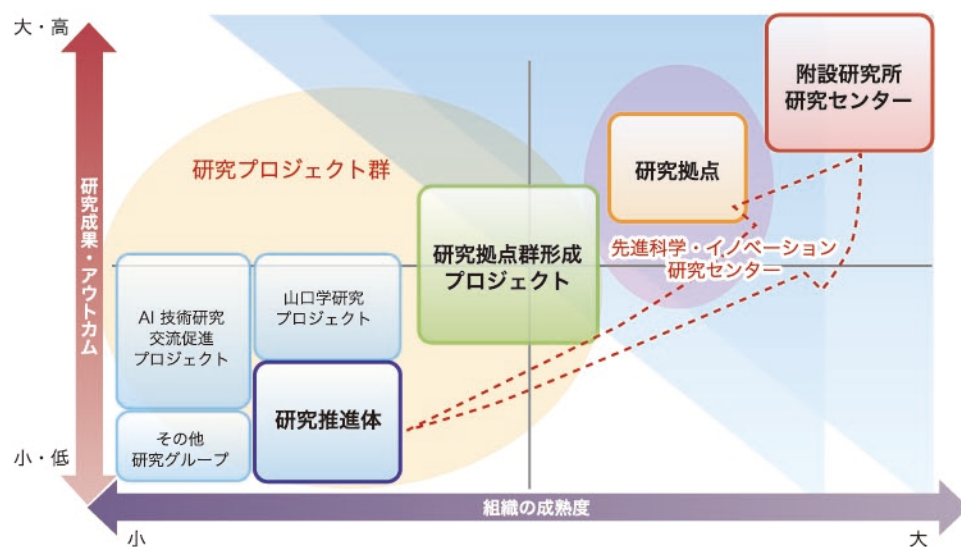
国際研究拠点の形成と異分野融合研究の推進

山口大学では、2014年度に新設した「先進科学・イノベーション研究センター」を核として、先進的・学際的な研究グループを、研究推進体、研究拠点群形成プロジェクト等から研究拠点、さらには大学附設の研究所・研究センターに引き上げるための制度を整備し、研究を推進しています。

「先進科学・イノベーション研究センター」は優れた研究を推進している研究グループの中から認定された研究拠点群により構成されており、研究拠点の一つである「**応用衛星リモートセンシング研究センター**」は、全国で初めて実現した国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)の地方一部移転に貢献するとともに、国内外の機関との連携による衛星データを活用した災害情報提供システム「山口モデル」を構築しています。同じく研究拠点である「**中高温微生物研究センター**」は、国内外の研究機関との共同研究を推進し、共同利用・共同研究拠点を目指して取組を進めています。

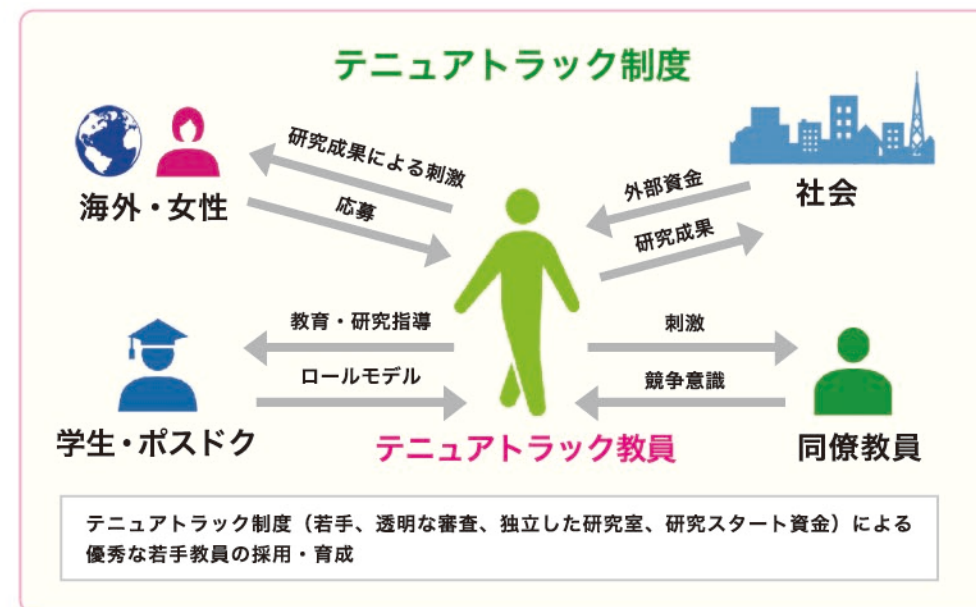
また、医学・獣医学研究の連携や、文理融合研究の実践のみならず、学術研究の枠を超えた地域・行政・大学の協働による「地域資産」を創出している「**山口学研究プロジェクト**」、さらには、Society5.0に対応すべくAI技術の研究を行っている教員と他分野でデータを扱った研究を行っている教員との共同研究の促進を通じてデータサイエンス文化を醸成する「**AI技術研究交流促進プロジェクト**」等、異なる角度からの異分野融合研究の創成を進めています。

山口大学の研究拠点・プロジェクト等の関係図



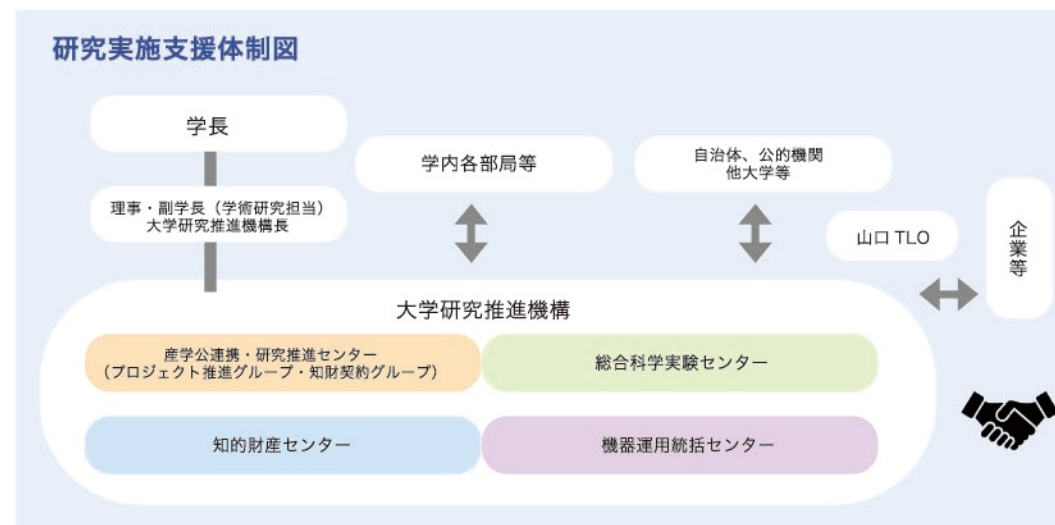
若手研究者の育成

山口大学では、文部科学省「テニュアトラック普及・定着事業」の採択をきっかけに、テニュアトラック教員の積極的な採用策として、2016年度に大学予算と補助金(科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業)を活用し、山口大学独自の「**若手研究者雇用促進事業**」を制度化しました。この事業では、優れた研究教育を行う能力及び資質を有する人材を確保し、山口大学の研究力向上を牽引する研究者を継続的に育成する目的で、山口大学独自にテニュアトラック教員を採用し、メンター教員の配置、スタートアップ資金の措置、研究スペースの確保等の教育研究環境の整備を行っています。また、2019年度には、広島大学を代表機関とした文部科学省「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」に採択されており、「若手研究者雇用促進事業」と連携して、若手研究者を育成しています。



研究実施支援体制の強化

山口大学では、文部科学省「リサーチ・アドミニストレーター(URA)を育成・確保するシステムの整備事業(2012年~2016年)」をきっかけとして、URA室を設置し、研究実施支援体制の整備を行いました。2020年7月には、これまで研究支援活動を行ってきた専任教員、URA等の専門人材を「産学公連携・研究推進センター」に集約し、機能面での連携を強化するために、事務職員との**混職共同で全学を対象に支援を行う**「プロジェクト推進グループ」と「知財契約グループ」を作り、タスクフォース型の業務運営を行っております。



※URA : University Research Administrator とは…

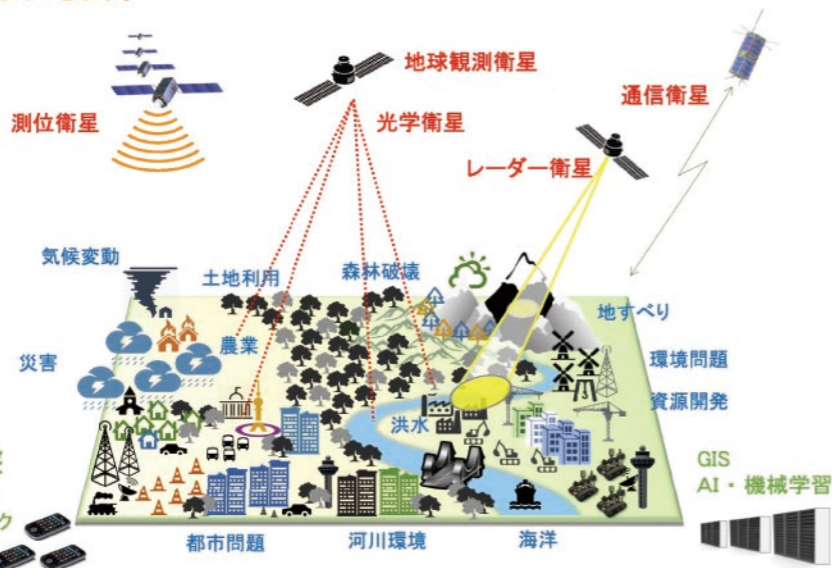
我が国の大学等では、研究開発内容について一定の理解を有しつつ、研究資金の調達・管理、知財の管理・活用等をマネジメントする人材が十分ではないため、研究者に研究活動以外の業務で過度の負担が生じている状況にあります。このような状況を改善するため、文部科学省は、研究者の研究活動活性化のための環境整備及び大学等の研究開発マネジメント強化等に向け、大学等における研究マネジメント人材(リサーチ・アドミニストレーター)の育成・定着に向けたシステム整備等を行っています。

山口大学は宇宙の実験場

応用衛星リモートセンシング研究センター(YUCARS)は、JAXAをはじめ国内外の宇宙機関や大学、民間企業と連携し、宇宙から観測された衛星データを利用するための様々な研究開発を行っています。**インフラとして宇宙が活用できる社会を目指し、宇宙と人間社会をつなぐ情報を創出しています。**衛星データの利用分野は防災、環境、情報科学、農業、経済等、多岐にわたります。特に、防災の分野では、災害直後に衛星データを速やかに解析し、災害対応に貢献できる情報を地方自治体や海外の途上国に迅速に提供しています。

YUCARSは、世界的なパラダイムシフト(価値観などの劇的な変化)が起こりつつある宇宙技術分野の開発と利用において、宇宙インフラの利用技術を進展させるとともに、この分野の科学者・技術者(データサイエンティストやデータエンジニア)を養成し、社会に貢献したいと考えています。宇宙技術が私達の生活の中で身近に利用できるようになれば、災害時に命を守ることや安定した食料の収穫支援、環境問題の把握等、地球を守る活動に貢献できます。YUCARSは、宇宙利用の大きな可能性を確信しています。山口大学から、**衛星リモートセンシング技術の最新の研究成果を世界に発信し、宇宙利用ができる人材を世界に送り出していきます。**

宇宙インフラ



詳細ホームページ

<http://yucars.eng.yamaguchi-u.ac.jp/>



時間学研究所の取組

山口大学の附属研究所である時間学研究所には、宇宙で生じる現象を研究する天文学者、生物の体内で働く時計(生物時計)を調べる生物学者、人間がどのように時間を認識しているのかを調べる心理学者、現代社会が正確な時間に従うようになった過程を調べる社会学者、時間とは何かを哲学的に研究する哲学者が在籍しています。**時間という観点で研究者間の交流を図り、時間学という新たな学際領域を創造すること、そしてその成果の社会的な還元を行うことを目的に活動しています。**国外も含めた研究者同士のネットワークを広げるための活動も展開しており、大学間国際交流協定を締結しているモスクワ大学等から研究者を招聘し、国際会議・研究交流・共同研究等を実施しています。

ブラックホールの観測においては、2素子の干渉計としては世界最大である口径32m-34mの大型アンテナを電波望遠鏡として整備し、干渉計観測を実現し、銀河系内ブラックホールであるGRS1915+105について、X線のフレアに伴って電波でもフラックス密度が10倍以上に増大することなどの現象を見出しました。

このような独創的な研究活動が評価され、2022年度には、山口大学にて国際時間学会を開催することが決定しており、今後さらなる国際的研究交流の契機となることが期待されます。

詳細ホームページ

<http://www.rits.yamaguchi-u.ac.jp/>



時間学研究所発行のシリーズ書籍『時間学の構築』第1～3巻

見島牛の遺伝子解析

萩市の見島では、国の天然記念物である見島牛が飼育されています。**見島牛は西洋種の影響を受けていない日本在来牛として大変貴重な存在**であり、現在見島で80頭程度が飼育されています。共同獣医学部では2018年度から、見島牛の遺伝情報を調べる研究を開始しました。

過去に世界中で行われた研究の蓄積により、牛では140種類程度の単一遺伝子性疾患と20種類程度の形質(毛色や角の形状など)について、原因と考えられる遺伝子変異が報告されています。この原因遺伝子の数は今後の研究進展に伴い、さらに増えていくと予想されます。従来、遺伝子のDNA配列を読むには比較的手間と時間を要しましたが、近年開発された新しい手法を用いれば、上記の160種類以上の遺伝子変異全てを、数十頭分でも数百頭分でも、一度に調べることが可能になりました。**本研究では見島牛のほぼ全頭を対象に、これらの遺伝子変異の有無を確認します。**本研究は、見島牛保存会の飼養者の方々ならびに、萩市や山口県北部家畜保健衛生所などの関連機関の方々の協力を得て行っています。また、山口大学や外部研究機関の共同研究者と一緒に進めています。

本研究により、もしも既知の遺伝病の原因遺伝子変異が見つかった場合には、遺伝子変異を持つ牛同士の交配を避けることで、遺伝病や流産の発症を未然に防ぐことにつながり、貴重な遺伝資源である見島牛の保存に寄与できる可能性があります。



見島で飼育されている見島牛

地域イノベーション・エコシステム形成プログラムの取組

山口大学は、2017年度に文部科学省地域イノベーション・エコシステム形成プログラムに採択され、山口大学の革新的コア医療技術シーズを基に、山口県の地域課題である「**健康長寿社会の実現**」に貢献し、地域医療産業の推進・支援・実績としてのコア・コンピタンスを活かして、**アンメット・メディカル・ニーズ(既存医薬品では満たされていない患者のニーズ)市場の開拓**を目指し、事業を実施しています。

◆プロジェクトの特徴

- I. 山口県の地域課題と、地域としての医療産業の推進・支援・実績としてのコア・コンピタンスを活かす。
- II. 山口大学の革新的コア医療技術シーズに着目し、大学の使命として、既存医薬品では満たされていない患者の医療ニーズ、アンメット・メディカル・ニーズ市場の新開拓に挑む。
 - i) 患者数が多く、治療薬を必要とする声が多い疾患生活習慣病、癌などを指す。→事業化プロジェクト
 - ii) 患者数は少ないものの、治療薬の必要性が高い疾患患者数が5万人未満(厚生労働省の定義による)の、いわゆる希少疾患と呼ばれる難病を指す。これらの希少疾患に効果がある治療薬は「オーファンドラッグ(希少疾病用医薬品)」と呼ばれる。→基盤構築プロジェクト
- III. 地域の方でコア技術のインキュベーションとサプライチェーン補完、コア医療技術人材育成や産学公連携によるプロジェクト運営ノウハウの蓄積

◆事業化プロジェクトの紹介

細胞製剤をgoalとした医療産業実現のためのプロセス構築およびサプライチェーンの事業化

がんに対する革新的先端医療技術の中で、免疫細胞(T細胞)に遺伝子改変技術を加えたCAR-T細胞療法は、近年特に高い期待を受けています。我々は、現在のCAR-T細胞療法よりもさらに固形がんに対して強い攻撃力を示す次世代CAR-T細胞を開発しました。また、がん患者自身ではなく健康者から採取したT細胞からCAR-T細胞を作製する手法の開発にも取り組んでいます。この技術を活用し、次世代CAR-T細胞による治療法の開発および実用化のための次世代CAR-T細胞の大量培養法の確立、細胞培養の自動化システムにおける基盤技術の開発を目指します。



CAR-T細胞療法の革新的治療法の事業化

地域社会とともに前進する

地域の「知」の拠点としての機能強化

山口大学は地域の基幹総合大学として、様々な方面で地域と連携・協力し、これまで以上に地域の「知」の拠点としての役割を果たし、「地方創生」を牽引します。

様々な分野で活躍できる人材の養成・育成を地域と進めるとともに、産業振興に寄与し、イノベーションの創出を行うことにより、**地元への“人財”の定着の促進**を図ります。文化の香りのする地域の実現とともに、高度先進医療の提供、防災や環境に関する研究成果の展開などを通じて安全で安心して生活できる地域の実現に貢献します。

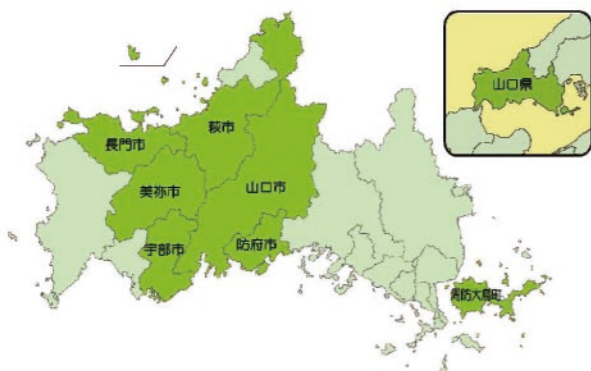
地域社会の期待に応える活動

○地域の課題に取り組む推進体制の整備

・地域の基幹総合大学として、「地方創生」を牽引するため、対外的には、大学リーグやまぐち※、地方自治体、地元産業界等との連携を強化し、包括連携協定を通じた取組や地域の課題解決につながる取組を実施します。学内的には、全学的なワンストップサービスの窓口である「**地域未来創生センター**」を中心に、**学内リソースの集約・リスト化、地域課題の実態把握等の機能を充実させ、より機動的できめ細かな対応に資する体制を強化します。**

※大学リーグやまぐちとは、県内全ての大学・短大等が相互に連携し、県との協働を図りながら、大学・短大等の魅力や地域貢献力の向上、若者の県内定着の促進を図ることを目的として設置された団体です。

【山口大学】包括連携協定締結自治体



自治体名	協定締結日
山口県	2015年2月27日
宇部市	2004年12月21日
山口市	2005年9月28日
美祿市	2014年3月5日
周防大島町	2015年1月21日
長門市	2015年10月27日
防府市	2017年12月18日
萩市	2018年1月24日

○地域の産業への貢献

・大学リーグやまぐち、地方自治体、地元産業界等との連携を通じ、地域が求める人材、能力に関するニーズ調査を実施し、**インターンシップの拡充、キャリア教育・職業教育の充実等を含む教育プログラムを構築・展開しています。**また、地元企業データベースを整備・活用して学生への情報提供を行うなど就職支援の取組を行い、**地元への定着率の向上を図ります。**

・地域課題（ニーズ）と大学資源（シーズ）のマッチングを行い、異分野連携チームやステークホルダーとの協働による研究プロジェクトを推進し、地域発ベンチャー創出の支援を強力に行い、地域活性化と地域イノベーションに尽力します。

○地域の教育・文化を牽引

・山口県が抱える課題の解決に資するため、「**山口学研究センター**」を中心に**山口県**の**自然、文化、歴史、防災等に関するプロジェクト研究を文理融合の視点から推進します。**得られた成果は、地域の課題解決のための提言や、**生涯学習や公開講座等による地域への「知」の還元**などの「地方創生」に資する取組として組織的に展開します。また、プロジェクト研究を推進する中で、地域への情報発信、地域と連携した人材の育成及び交流を通じて、地域の活性化に貢献します。

・教職大学院を中心に、山口県の教育委員会及び県下の他大学と連携・協働して、資質能力の高い教員の育成に寄与します。

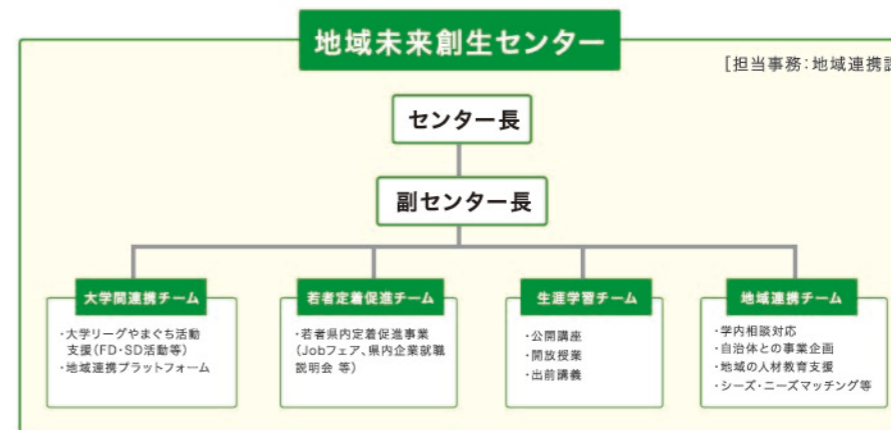
これらの計画を達成するために、地域連携担当副学長のもと、地域未来創生センター及び山口学研究センターが中心となって活動しています。

また、地域未来創生センターにおいては、2020年度から、学内組織を複合的に編成するチームにより多様な業務を運営する体制を整備しました。

大学のワンストップ窓口として地域の課題解決等に取り組んでいます！



相談内容に応じた教員・学生・組織とのマッチングにより、地域と大学を結び付けます！



地域未来創生センター業務運営に係るチーム推進体制

山口大学の地域連携活動

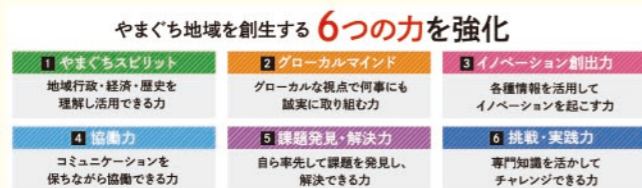
1. “オールやまぐち”で若者の地元定着に取り組む「COC+事業」第2ステージ

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)」は、2015年度から2019年度にかけて、地方の若者人口の流出と地域経済の縮小に歯止めをかけることを目的とした文部科学省補助事業であり、山口県においては、山口大学を代表校として、県内高等教育機関、山口県をはじめとするすべての自治体、経済団体、民間企業等(2015年度事業開始当初:58機関)が一体となって事業に取り組みました。この間、事業の意義・目的等を県内に広く浸透させ、**参加企業等が年々増えた結果、全国最多の実施体制(2020年3月末:177機関)となりました。**

2020年度からは、COC+事業で築き上げてきた連携体制を継承し、県内の高等教育コンソーシアムである大学リーグやまぐちの事業へ発展させて取組をスタートしたところです。また、大学リーグやまぐちの機能強化に同調して、山口大学では、**地域未来創生センターに「若者定着促進室」を設置し、大学リーグの中核となって新たな取組の提案やこれまでの成果の検証等を行っています。**

「やまぐち未来創生リーダー(YFL)育成プログラム」による地域の未来を担う人材育成

YFL育成プログラムは、山口県の将来を担うリーダーになるための教養や実践的なスキルを学ぶ教育プログラムです。地域社会が求めている能力を「6つの力」に整理し、高等教育機関、地方自治体、企業等、地域が一体となってプログラムを運営しています。



プログラムの構成は、①地域で生き抜くための実践的なスキルを修得する「コア科目・実践導入科目」、②県内各地域での合宿型フィールドワークを行う「基幹科目」、③課題解決型の実践的なインターンシップである「PBI科目(PBI:Project Based Internship)」となっています。

山口きらめき企業の魅力発見フェア(Jobフェア)の開催

Jobフェアは、大学生等の若者を中心に、山口県内の企業の製品・サービス・技術等の魅力を発信し、県内の多くの優良企業の認知度を向上するために2016年度から開催しており、毎年76機関～86機関の企業・自治体のブース出展があり、約1,200名～1,600名に来場いただいています。

Jobフェアの波及効果として、企業における認知度向上を目指したテレビCM等の広報活動が活発に行われるようになりました。



2. 山口大学サテライトオフィスの活用による地域活性化 ～包括連携協定の進展～

山口大学と包括連携協定を締結している美祿市及び萩市では、各市が供用する施設を山口大学サテライトオフィスとして設置し、地域振興を目指した取組を行っています。美祿市では、2016年度に秋吉台科学博物館内に「山口大学秋吉台アカデミックセンター」を設置し、本学教員によるジオパーク活動支援や国際シンポジウムの開催(2017年度)等を行っています。また、萩市では、2019年度に、市内に「山口大学サテライトラボ萩」を設置し、本学の公開講座の開講や研究プロジェクト活動拠点等として活用しています。

なお、**2020年度から、美祿市及び萩市の共通事業であるジオパーク推進活動に取り組む社会連携講座「美祿・萩ジオパーク推進講座」を本学に設置し、世界ジオパーク認定等へ向けた連携を一層強化しています。**



秋吉台アカデミックセンター

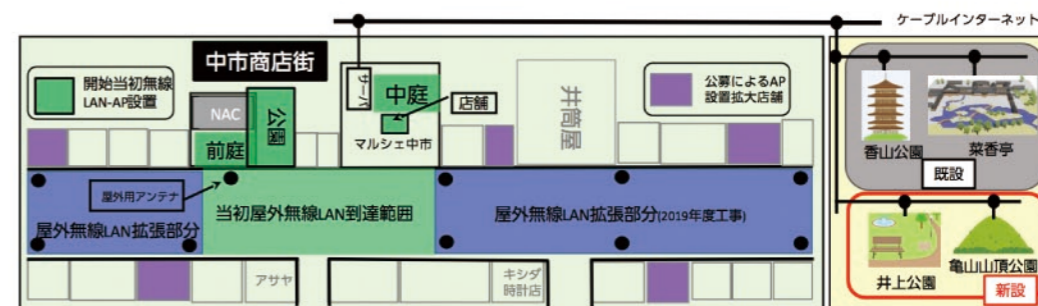


サテライトラボ萩

3. 山口学研究プロジェクトによる「スマート商店街」の構築

2015年度に設置した「山口学研究センター」は、山口県の自然、歴史、産業、観光、流通、教育等に関する研究を文理融合により推進するとともに、地域社会の活性化に寄与することを目的としています。センターでは、現在、6つの研究プロジェクトを認定・支援しており、中でも特徴的な「無線LAN技術によるスマート商店街の構築と観光回遊データ連携分析に基づく活性化方針立案への展開」プロジェクトについてご紹介します。

本プロジェクトでは、衰退傾向にある地方の中心商店街の活性化を目指し、商工会議所や地元企業、地元銀行等と連携して、山口市や萩市の中心商店街、観光スポットに公衆無線LANを設置し、**商店街を訪れた人々のスマートフォンに店舗ごとのwebサービスの提供を行うとともに、接続履歴データを蓄積する「スマート商店街」を構築し、このデータを基に新たな回遊促進や新たな街の魅力創出などを立案し、地域活性化に取り組めます。**将来的には、本学が包括連携協定を締結する長門市、美祿市、周防大島町などへの展開を計画しています。



山口市中心商店街無線LAN配置図

「地域未来創生センター 若者定着促進室」紹介サイト
YFL COC+ 検索 <http://www.yamaguchi-u.ac.jp/institute/wakasoku.html>



Job フェア 2019 紹介動画
<https://youtu.be/q7r-Xa3Nb80>



山口から世界へ発信する

ダイバーシティ・キャンパスの実現に向けて

山口大学では、多様な価値観が共存する環境の実現を目指して、海外協定校との交換留学モデルの構築、海外留学や海外インターンシップに係る条件整備、海外オフィスを活用した広報活動の強化や海外同窓会の組織化を推進しています。
その実現のため、派遣学生や受入留学生が安全・安心に学ぶことができる環境づくりに注力しています。

安心して学べる環境

- 2016年7月から留学生危機管理サービスに加入し、派遣学生・受入学生が全員加入しています。24時間365日対応のコールセンターによる派遣学生の安否確認、医療機関対応や受診時の通訳サービスを受けることができます。
- 2018年度には、**受入留学生の生活支援策として、市役所の手続きや病院、子どもの学校の付添に対応するため、LiVi (Livelihood Support Volunteers for International Students)を立ち上げました。“病院指差しカード”はその成果の一つです。**
- ハラル・フードの提供や文化交流用の部屋の整備など、留学生らの多様な文化に配慮した環境を整備しています。
 今後も、海外留学中の学生が危機に遭遇した状況を想定した危機管理シミュレーションの実施等、引き続き学生が安心して学べる環境づくりに取り組めます。



留学等に関する連携体制

- 海外協定校の協力のもと、外国の教育研究機関と相互交流の推進及び本学の情報発信を目的として、**6か国・地域の計6か所に国際連携オフィス**を設置し、現地の優秀な学生獲得に向けた広報活動、本学派遣学生の留学支援等を行っています。
- 卒業生とのネットワーク強化及び本学への派遣や海外広報機会の創出・充実のため、**海外同窓会が9支部**設立されています。
- 在学生に対しては2018年度より留学フェアを開催し派遣留学や語学研修奨学金についての紹介、留学体験談等、留学に関する情報を幅広く提供し、留学意識の醸成を図っています。

〈国際連携オフィス〉



※山口大学・ガジャマダ大学国際共同事務局（ガジャマダ大学内）

グローバルリーダーの育成のための取組

山口大学では、グローバルリーダー育成のための国際水準を満たす教育課程の編成の実現に取り組んでいます。

共同獣医学部

2019年12月にアジアで初めて欧州獣医学教育機関協会(EAEVE)認証を取得しました。EAEVEの認証取得により、教員体制、臨床実習や病理学実習、教育カリキュラムが国際水準を満たしていることが保証されました。アジア初のEAEVE認証機関として、日本国内の獣医学教育の先進事例となるのみならず、アジア地域の獣医学教育の発展に貢献すること、欧州の大学・機関との感染症研究等の研究交流等を推進することなどの取組を推進しています。

技術経営研究科

技術経営(MOT)教育・研究をアジアで展開するため、2015年度に、アジアイノベーションセンターを設立し、MOT教育コアカリキュラムの整備やモデル教材を開発しています。マレーシア工科大学には、知的財産に関する国際連携講座を共同設置し、インドネシアのパンドン工科大学においては新興国のイノベーションに特化した国際連携講座を設置しています。

2019年度には、海外機関との協定に基づく雇用契約として制度化した国際クロスアポイントメント制度によりマラ工科大学から教員1名を特命教員として雇用し、構築した教育拠点をベースにASEAN各国への展開を図る取組を開始し、2021年度までに延べ4名の雇用を計画しています。

SDGs 推進に向けた取組

国連で国際合意に達した2016年から2030年までの世界の長期目標SDGs:Sustainable Development Goals-持続可能な開発目標の推進に向けて、本学ではSDGsと授業科目の関連付けの可視化、女性大使を招いたシンポジウム(2016年開催)などのSDGs関連イベントの開催や山口大学x宇部SDGsクリエイティブ人財育成講座などの関連講座の開設等に取り組んでいます。

2019年に開始された、英国高等教育専門誌(THE:Times Higher Education)による、SDGsの取組を通して大学の社会貢献度を評価するランキング「THE大学インパクトランキング」に本学は2年連続でエントリーしました。「THE大学インパクトランキング2020」には世界766大学、日本63大学がエントリーし、**本学は総合ランキングで国内9位になりました。**

地域のために 日本のために 地球のために

Sustainable Development Goals は 未来のためにできること



海外協定校との交換留学モデルの構築

山口大学では歴史的・地勢的特色や地域産業との連携を活かした「安心して学べる」留学モデル(山口モデル)を構築しています。

ユニバーシティカレッジロンドン・エジンバラ大学・パース大学(イギリス)

- 2018年6月に、在英国日本大使館においてユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)及び鹿児島大学と共同で「維新150周年記念国際シンポジウム」を開催、また、UCLにおいて有機化学、医学、防災各分野の学術分科会を同時開催しました。
- エジンバラ大学とは学生交流、リモートセンシング技術応用研究・獣医学の分野で、パース大学とは学生交流、医学の分野での連携を確認し、エジンバラ大学と2018年11月、パース大学と2019年8月に国際交流協定を締結しました。
- 2019年11月にはイギリスで開催されたJANET(Japan Academic Network in Europe:在欧日本学術拠点ネットワーク)フォーラムにおいて、山口大学とUCLのこれまでの活動やリモートセンシングを使ったUCL Institute for Risk & Disaster Reductionとの連携を紹介しました。



2019年11月JANETフォーラム

ハイメ1世大学(スペイン)

- スペイン・ハイメ1世大学とは本学と包括連携協定を結んでいる宇部興産株式会社との連携が契機となり2017年10月に国際交流協定を締結しました。2018年度から学生派遣、2019年度から学生受入を開始しました。宇部興産ヨーロッパからは本学への派遣学生・職員に対する経済的支援も行われています。
- 2019年にハイメ1世大学に派遣した5名の学生が、カステジョン市や宇部興産ヨーロッパの行事に参加し、交流大使の役割も担いました。



2019年4月ハイメ1世大学来学

ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ(アメリカ合衆国)

- 日本からハワイへ移民が渡航して150年目となる2018年にハワイ大学カウアイコミュニティカレッジと国際交流協定を締結しました。同カレッジが立地するハワイ州カウアイ島には、山口県からの移民の子孫によりカウアイ山口県人会が組織されており、同会より本学学生がカウアイ島に滞在する際には、学生の活動を支援するとの申し出をいただき、カウアイ山口県人会と連携に関する覚書を締結しています。
- 2019年8月より第1期派遣生をカウアイコミュニティカレッジへ派遣し、山口県人会よりホームステイ先を提供していただきました。



2018年9月カウアイ山口県人会調印式

国際戦略室ウェブサイト URL

<http://www.iassc.jimu.yamaguchi-u.ac.jp/index.html>



UNIVERSITY OF HAWAII KAUAI COMMUNITY COLLEGE

新型コロナウイルス感染症の影響により、残念ながら、留学期間が短くなってしまいましたが、ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジへの留学はいかがでしたか？

2019年8月より第1期生としてハワイ大学カウアイコミュニティカレッジに国際総合科学部の小田真央さん、高橋絢子さんの2名を派遣しました。

当初、留学期間は1年間の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年3月に帰国することになってしまいました。

留学について2名にインタビューをしました。

小田: 留学中は毎日がとても刺激的でした。第1期生だったので、留学前は得られる情報が少なく不安はありましたが、カウアイコミュニティカレッジもカウアイ島も本当に素敵なお場所で大好きになりました。「もっと自分自身が成長してから」と先延ばしにしてしまったことがいくつかあり、それは心残りですが、その悔しさも次の学びへと活かしていければと思います。

高橋: 私の人生に大きな意味を与えてくれた留学になりました。留学期間が短くなったことで中途半端になってしまったこともありますが、その悔しさ以上に島の方々の優しさや温かさなどの「ハワイアンスピリッツ」に感動しました。彼らの考え方や過ごし方、全てが新鮮でした。

ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジではどんなことを勉強しましたか？
カレッジの雰囲気や授業外の活動はいかがでしたか？

小田: ホスピタリティ・ツーリズムを専攻していました。授業は実践的な内容で難しかったです。課題が出される度に何度もチューターの元へ通いました。最終評価でAを頂けたのは支えてくださったみなさんのおかげです。授業外では日本語クラスにTA(ティーチングアシスタント)として参加し、現地の学生と交流しました。クラスの1人は山口大学への留学が決まったので、日本で会える日を今から楽しみにしています。

高橋: クリエイティブデザインという学部にも所属し、主にウェブデザインについて勉強していました。カレッジなので年齢の幅も広く同世代だけでなく高齢の方も多く通われており、学生・教授分け隔てなく助け合い、思いあっている暖かな雰囲気でした。また、授業外の活動のおかげで友人も多くできました。



ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジでは山口県人会との繋がりにより、協定派遣先で唯一ホームステイ先を提供していただいています。ホームステイや山口県人会の方々との繋がりはいかがでしたか？



小田: 山口県人会の方々には本当に良くしていただきました。ハワイの言葉で「家族」を表す「オハナ」という言葉があるのですが、「あなたは私たちのオハナだよ。」と留学中に何度も言うてくださったことを思い出します。フラを教えてください、大学の発表会に足を運んでくださったり、学校が休みの日にはカウアイ島の観光名所にも連れて行ってくださって、沢山の思い出を作ることが出来ました。留学は半年で終わってしまいましたが、山口県人会の方々との交流はこれからも続けていきたいです。

高橋: 非常に気にかけてくださっていることがとても伝わりました。イベントが島であるときは必ず教えてくれて連れて行ってくださったり、ことあるごとに私たちを紹介してくれたりして、県人会の方々だけでなく島の方々になじめるように気遣っていただいていたと感じます。また、フラダンスなどハワイアン文化にも積極的に招待していただき、私たちがハワイアン文化に触れる手助けをしていただきました。

ダイバーシティ・キャンパスの実現

山口大学では、「ダイバーシティ・キャンパス」の実現を目指して、キャンパスに集う全ての構成員(学生・教職員)の性別、国籍、障害の有無及び性的指向などの多様性を尊重し、各自の**個性と能力が最大限に発揮できるような就学・就業環境の整備と充実**に取り組んでいます。

山口大学のダイバーシティ推進の体制

ダイバーシティ推進室(Diversity Promotion Office)

学長を本部長とし、全ての理事、副学長及び部局長をメンバーとしたダイバーシティ推進本部のもと、全学的なダイバーシティ・キャンパス実現への取組を推し進めています。

室長を**ダイバーシティ推進担当副学長**とすることによって、実施体制のさらなる強化を図っています。



ダイバーシティ推進室では、戦略として、**年度毎に強化テーマ**を掲げ、これまで「イクメン」「仕事と介護の両立」「SOGI(多様な性的指向や性自認)」に関する取組を行ってきました。これらの取組は、ダイバーシティ推進室だけでなく、組織横断的な取組が求められます。これからも全学を挙げて、山口大学が目指すダイバーシティ・キャンパスの実現を目指して、さまざまな取組を進めていきます。



ダイバーシティ推進室が進める施策

ダイバーシティ推進室の取組は、山口大学の全ての構成員に関係します。同時に、山口大学という組織の枠を超えて、地域社会との連携も行います。ダイバーシティ推進室が進める施策は ①**ダイバーシティについての理解促進** ②**ワーク・ライフ・バランス支援** ③**女性研究者の活躍促進** ④**多様性を尊重した構成員支援** ⑤**地域社会との連携** です。

1. ダイバーシティについての理解促進

ダイバーシティを促進するうえで、もっとも大切なのが、構成員一人ひとりがダイバーシティについての理解を深めることです。そのために、セミナーを開いたり、ニュースレターを発行したり、教職員がダイバーシティを意識しやすい環境づくりに努めています。

例:ダイバーシティ推進セミナーの開催

毎月のメールマガジンと年1回のニュースレターの発行



男性の家事参画フォーラム「カジダンのすすめ」

2. ワーク・ライフ・バランス支援

教職員が出産や育児、介護等のライフイベントを抱えることによって不利益を被ることなく、**全てのライフステージ**で活躍できるよう支援します。

例:学内学童保育(ヤマミイ学級)の実施

ライフイベント講習会
病児保育の利用料補助



ヤマミイ学級の様子

3. 女性研究者の活躍促進

世界的にみても日本における女性研究者の数はとても低く、管理ポストに就いている女性比率とともに、その向上が急務です。そこで、重点施策として女性研究者の裾野拡大や研究支援など、女性研究者の活躍促進に取り組んでいます。

例:積極的な女性研究者の採用

女性研究リーダープロジェクトの増加
ライフイベントと研究の両立支援
専任カウンセラーによる相談体制の強化

●山口大学が掲げる新たな数値目標(期間:2020年度~2025年度)

- ①女性教員割合を全体の**21.5%**にする
- ②理系学部的女性研究者の割合を**20%**にする
- ③上位職(教授以上)に占める女性教員の割合を**13%**にする
- ④大学の意思決定機関等(学長補佐等、経営協議会委員、教育研究評議会委員、部局長等、監事、大学運営に参画する外部委員等)における女性の占める割合を**10%**にする



ワーク・ライフ・バランス支援制度

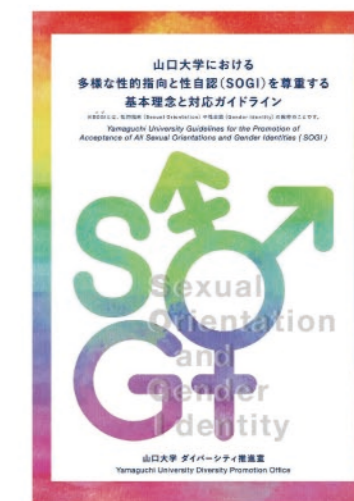
4. 多様性を尊重した構成員支援

LGBT(レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー)等のセクシュアルマイノリティに配慮し、大学として積極的に支援をするための仕組みを構築しています。その指針として、2019年4月に「**多様な性的指向と性自認(SOGI:ソジ)を尊重する基本理念と対応ガイドライン**」を策定しました。教職員と学生への理解促進を目的としたセミナーなどを定期的に開催しています。

また、外国人教員や留学生、障害のある学生の学内だけでなく、地域社会での過ごしやすさを追求するために、学内の担当部局と連携し、支援を広げていきます。

SOGIガイドライン:

<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/diversity/approach/03.html#02>



SOGIガイドライン

5. 地域社会との連携

地域とつながりダイバーシティの促進につながるさまざまな活動をしています。その取組は多岐にわたり、地域の方にもご参加いただけるダイバーシティに関するセミナーの実施や、学内学童保育(ヤマミイ学級)におけるシニアとの協働、また、企業や行政との連携による女性の活躍促進など、その可能性は広がるばかりです。

例:「リケジョの未来-うちの子が、もしも理系に進んだら-」(小・中・高校生の保護者対象)

「カジダンのすすめ」(大学生・県内若手社員・職員対象)

「SOGIについて一緒に考えてみませんか?」(高校生・大学生・教職員・一般の方対象)



ダイバーシティ推進セミナー
「SOGIについて一緒に考えてみませんか?」

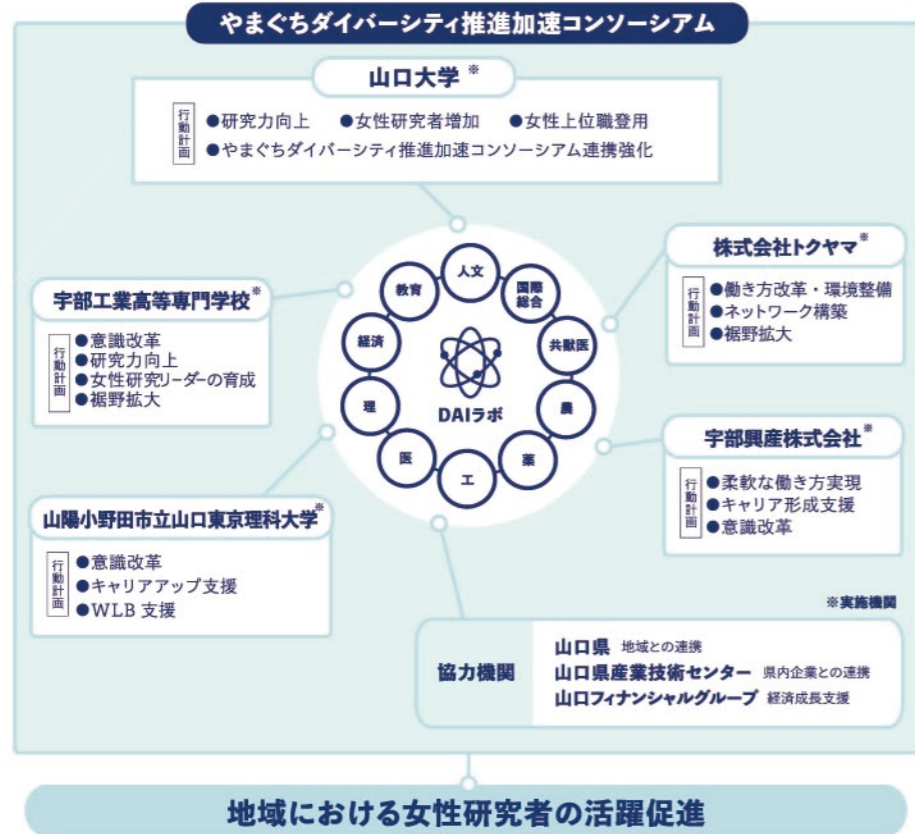
多様性を高め、さらにその先へ

ダイバーシティで地域と繋がる

2020年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」に採択されました

これまでに積み上げてきた山口大学のダイバーシティ推進をさらに加速させ、地域に波及させる取組として「DAIラボを軸とした産学公連携によるやまぐちの女性研究者研究活性化プログラム」を申請し、採択されました。



本事業では、山口大学を代表機関とし、山口県内の2つの高等教育機関と2つの企業の5機関を連携機関として、**女性研究者の研究力向上・女性研究者の増加・女性の上位職登用**を目的とした取組を行います。また、連携機関だけでなく、地域の様々な機関を協力機関とし、「やまぐちダイバーシティ推進加速コンソーシアム」を組織します。その中で、新設する「DAIラボ」※を事業運営のエンジンとして、地域全体の女性活躍の気運を高めていきます。

※ DAIラボ: Diversity x AI 女性研究者を含む研究チームによるAI技術を使った研究

ダイバーシティ施策利用者の声

●学内学童保育を利用して

経済学部 経済政策講座
小嶋 寿史 准教授



学童保育をたびたび利用させていただいています。子どもに感想を尋ねるといつも「楽しかった!」と返事が返ってきますので、ありがたいことだと思っています。親子共々また次の機会を楽しみにしています。

●研究補助員制度を利用して

大学院
創成科学研究科(農学)
金 貞希 助教



私は現在、単身赴任中のため、特に平日には一人で育児と仕事を並行しなければならない状況ですが、この研究補助員制度のおかげで、植物の世話や実験データのまとめなど、簡単な実験補助をしてもらい、限られた時間を有効に活用することができました。残念な点は、1日あるいは1週間の働く時間が制限されているため、もう少し長い時間の利用ができればいいなと感じました。ご支援ありがとうございました。

●病児保育施設等利用助成制度を利用して

医学部附属病院 放射線科
有吉 彰子 医師



子どもが熱を出すと、普段と異なり病児保育へ持参する荷物も多く、遠方への送り迎えに加え、帰宅後は看病も必要で、肉体的にも負担大です。利用して1ヶ月以内の申請を忘れないよう頑張っており、これからもお世話になります。ありがとうございます。

ダイバーシティ施策の表彰・認定

山口大学では、ワーク・ライフ・バランスの推進や女性が活躍する企業として、国や山口県から各種認定を受けています。今後もさまざまな認定取得を目指し取り組んでいきます。

「優秀将来世代応援企業賞」の受賞

子育て支援、女性や若者への支援、働き方改革において独自性・先進性のある取組を積極的に行っている企業として、「日本創生のための将来世代応援知事同盟」より表彰を受けました。

ダイバーシティ推進室を設置し、育児・介護に関する休暇制度の拡大、学内学童保育の実施、女性研究者の支援を推進するなどキャンパスに集う教職員や学生が、それぞれの能力を発揮することができるよう労働環境の整備に取り組んでいること、そして、これらの取組が実績を上げていることが高く評価されました。



日本創生のための将来世代応援知事同盟サミットinしが

「誰もが活躍できるやまぐちの企業」の認定

長時間労働の縮減や仕事と生活の両立支援に積極的に取り組み、若者、女性、高齢者、障害者など多様な人材が活躍できる職場環境づくりに成果を上げている優良企業として山口県の認定を受けました。



「くるみん」マーク(次世代認定マーク)の取得

「くるみん」マークとは、子育てサポート企業として厚生労働大臣の認定を受けた証で、次世代育成支援対策推進法に基づき、一般事業主行動計画を策定した企業のうち、計画に定めた目標を達成し、一定の基準を満たした企業を受けることのできる認定です。本学では「男女が共に働きやすい職場」を目指し、「ダイバーシティ・キャンパス」づくりに取り組んでいることが高く評価され、取得となりました。





学部トピックス

各学部においてもさまざまな特徴ある教育研究活動が行われています。

- ・人文学部
- ・教育学部
- ・経済学部
- ・理学部
- ・医学部
- ・工学部
- ・農学部
- ・共同獣医学部
- ・国際総合科学部

学部トピックス

人文学部

中国で「教師愛読100書」のTop10選出と「好書賞」のダブル受賞!人文社会科学系研究の推進



歴史学講座の馬彪教授が共著者として参加している『經典之門』(華夏出版社)が、中国で「教師愛読100書」のTop10に選出され、その後さらに「好書賞」を受賞しました。教師愛読100書は、日本の文部科学省にあたる中国教育部が所管する『中国教育報』社主催の年度賞であり、好書賞は権威ある『精品閲読』雑誌社による選定です。馬彪教授は全4冊のうち歴史地理篇の共著者を務め、同シリーズを紹介する書評でも「秦漢史の権威」として筆頭に紹介されています。

教育学部

教員を目指す学生の活躍! オンライン学童保育「大学生とおうちで遊ぼう!」



この活動は、これから数年間は続くと言われる「新しい生活様式」のもとでも、教育学部生と子どもたちが密に関わり合う機会を提供し、オンラインの特性を生かして新しい遊びや交流のカタチを創出するきっかけを提供したいと考え、開始しました。教員を目指す学生と学校現場での子どもたちとの交流活動の在り方の新たな提案となります。

取組内容は、Zoomを使って、子どもと大学生が自宅にいながら、みんなで一緒に様々なアクティビティ(絵しりとり、すごろく、工作、借り物競争、クッキング教室など)を行うというものです。

毎回のアクティビティを企画・立案しているのは教育学部生(主に1年生)です。打合せや準備なども含めてすべてオンラインで実施しています。

GWから週2回のペースで実施しており、2020年5月末時点で実施回数は8回、参加者は113名です。山口、東京、埼玉、大阪、京都、北海道など全国各地の児童が利用しています。事後アンケートでは、子どもや保護者の満足度は98%であり、リピーターも増えています。

経済学部

4名が合格!公認会計士試験



2019年11月に経営学科職業会計人コースの4年生3名、3年生1名が見事難関を突破し公認会計士試験に合格しました(合格率10.7%)。4人は、岡学長を訪問して合格を報告し、学長からこれまでの努力に対する労いの言葉と激励の言葉が贈られました。職業会計人コースは、2007年に第1期生が合格して以来多くの公認会計士を輩出しており、資格取得だけでなく、海外でも活躍できるグローバルな人材育成を目指しています。

理学部

国際化推進！
留学生来たれ！理学部サマープログラム



「山口大学理学部サイエンスサマープログラム2019」を2019年8月21日～30日の日程で開催しました。本プログラムは、2016年度から毎年、同学部主催の国際学術交流プログラムとして開催しており、**2019年は5大学から総勢29名（台湾13名、中国11名、韓国5名）の留学生を受け入れました。**本プログラム期間中、留学生は、同学部が提供する講義及び実習を受講しながら、本学の学生生活を体験し、様々な交流行事にも参加しました。

医学部

地域医療に貢献！
山口県医師修学資金貸与学生



2019年9月20日、学生14名と杉野病院長ほか関係者を含め20名が山口県知事激励会のため山口県庁を訪問しました。学生代表が村岡知事に地域医療への貢献を宣言した後、知事との歓談が行われました。
その後、学生が早期の段階から山口県の地域医療に触れることにより医学・医療への関心や意欲を一層高めてもらうよう**長門総合病院で見学実習が行われ、実際の診療で使用している医療機器を使った心エコー図検査などを体験しました。**

工学部

卒業生の活躍！
工学部創立80周年記念事業「特別講演会」



2019年11月15日、**工学部創立80周年記念事業「特別講演会」を開催し、120名を超える多くの参加がありました。**
宇部興産株式会社 専務執行役員として活躍されています卒業生の岡田徳久氏を招き、これまでの豊富な企業経験における海外での体験をご紹介いただき、学生たちへエールが贈られました。その後開催した交流会では、卒業生、教員、学生が親しく懇談し、工学部という絆のもと様々な分野や年代を超えて親しく語らうこととなりました。

農学部

優秀賞を受賞！
パテントコンテスト「君のひらめきを特許権にしよう！」



農学部生物資源環境科学科の市川裕咲さんが、2019年度パテントコンテスト「君のひらめきを特許権にしよう！」（文部科学省、特許庁などが主催）に、**アシナガバチの飼育に関連した「ハチ用巣箱」についての発明で応募し優秀賞を受賞しました。**市川さんは、特許出願も終え、権利化に向けた手続き、試作品づくりと実証実験、社会実装（山口TLOの支援を受けて）など、知的創造サイクル（創造・保護・活用）の実現に意欲を燃やしています。

共同獣医学部

アジア初！欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）の
獣医学教育認証取得



共同獣医学部では、鹿児島大学共同獣医学部とともに国際基準の獣医学教育を実践しており、2大学の共同教育課程の水準の保証とその向上を目的として、欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）の認証評価を受審し、**“アジア初”のEAEVE認証機関として承認されました。**
この取組で培った知見により、日本の獣医学教育の改善・充実に資するとともに、アジア地域における獣医学教育の発展及び獣医師養成に大きく貢献できる取組を行っています。

国際総合科学部

ロゴマークをリニューアル！
ロゴマーク入りグッズを活用



国際総合科学部では、2019年3月に第1期の卒業生を送り出したことを新たなスタートの契機と捉え、学部ロゴマークをリニューアルしました。新しいロゴマークは、本学部の基本理念である「ジェネラリスト」「グローバルズム」「学術の場」を表現し、従来よりもカジュアルで親しみやすいデザインとなっています。
さらに、このロゴマークを取り入れたグッズ（ボールペン、エコバッグ、クリアファイルなど）も製作し、学部広報等で活用しています。また、学生自らの発案でオリジナルグッズを作成できる環境を整えることも検討しています。

参考：「FGSS」文字の商標を、第16類（事務用品等）、第25類（被服、履物、帽子）、第41類（教育活動等）で登録しています。

山口県の中核医療機関として、安全・安心な地域医療の実現に貢献する

新型コロナウイルス感染症への対応

2019年12月に報告された新型コロナウイルス感染症の影響は、今や世界中に広がっています。山口大学医学部附属病院では、山口県内唯一の特定機能病院として救急医療・高度先進医療を継続的に提供するため、また、地域の基幹病院として他の病院での治療が困難な新型コロナウイルス感染症の重症患者さんを受け入れるための様々な取組を行っています。

新型コロナウイルスを「持ち込まない」「見逃さない」「拡散させない」を方針に、患者さんの安全を確保し、安心して医療を受けていただけるよう、万全の対策を行っていますので、皆様には安心して受診していただけます。

入院前PCR検査等の実施

新型コロナウイルス感染症には、発熱などの症状がない無症状・無自覚の感染も確認されており、感染を未然に防ぐこと、また、院内において患者間の感染を防ぐことも重要です。

本院では、全ての患者さんに安心して医療を受けていただけるよう、入院患者の入院前PCR検査を行っています。入院前の外来診察時に検体を採取し、陰性であることを確認した上で入院していただくこととしています。



高度医療設備の整備

他の医療機関での治療が難しい重症患者さんを受け入れるため、ウイルスの流出を防ぐ陰圧病室や重症呼吸不全の場合に使用するECMO(体外式膜型人工肺)など、高度な医療を提供するための施設・設備を備えています。



陰圧病室入口



陰圧病室内



ECMO

水際対策の強化

本院に入院されている患者さんの多くは重症度が高く、院内感染が発生した場合、重大な影響を受ける可能性があります。このため、面会制限や入館時の検温等、病院内にウイルスを持ち込まないための対策を行っています。



入館時の体温測定の様子



非接触型体温計

地域の方々からのご支援

多くの市民の皆さま、企業・団体・医療機関の方々から、マスクやガウン、フェイスシールドなどの医療資材や励ましのメッセージなどをお寄せいただいています。本院へのあたたかなご支援・ご声援、誠にありがとうございます。



マスク寄附の様子



応援メッセージ

地域への協力・情報提供

県の専門家会議等に参加・協力したり、TVや新聞等のメディアを通じて新型コロナウイルスについての知見を紹介したりしています。また、学生が作成したコロナウイルス解説動画を大学公式YouTubeで掲載していますので、ぜひご覧ください。



解説動画



QRコード

患者支援センターによるサポート体制

本院では、外来、入院時、退院時、退院後と切れ目なく患者さんやご家族の支援を行う「患者支援センター」を設置しています。専任看護師17名、MSW(医療ソーシャルワーカー)7名体制で、患者さんやご家族が安心して医療を受けられるようサポートしています。

患者支援センターの主な業務



入院前オリエンテーションの実施

入院前に必要な手続きや準備すること、入院中の療養生活について説明し、患者さんが安心して入院できるようにしています。



地域の医療機関などと連携してサポート

入院前から退院に向けて介護保険などの制度を活用し、地域の開業医の先生や訪問看護ステーション、地域包括支援センターや行政の方々など、様々な関係機関と連携しています。退院後も安心して生活していただけるようにしています。



各種相談を受付

病気のこと、お金のことなど様々な相談に応じています。また、がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院として、がん相談や肝疾患相談にも対応しています。
■相談内容/医療福祉相談、がん相談、肝疾患相談、患者申出療養相談、セカンドオピニオンなど

患者支援センターは、地域の開業医の先生や訪問看護ステーション、地域包括支援センターや行政の方々など、様々な関係機関と連携しています。センターが病院と生活をつなぐ架け橋となるよう、スタッフ一丸となってサポートします。お気軽にご相談ください。

患者支援センター(外来診療棟1階) ☎0836-22-2482

新生児ドクターカー(すくすく号)の運行

本院総合周産期母子医療センターでは、2020年3月に新生児ドクターカー「すくすく号」の運行を開始しました。医療機関の要請に応じて出動し、**緊急に集中治療を必要とする新生児に適切な初期治療を行いながら搬送します。**

すくすく号は搬送用保育器や人工呼吸器等を搭載し、NICUの医師・看護師が同乗することで、より早い医療的ケアを可能としています。出動範囲は山口県内及び近隣県の医療機関です。

本院はすくすく号の運用を通じて、県内の周産期医療体制のさらなる充実に貢献します。



山口大学病院基金 皆さまからのご寄附は、以下の目的に使わせていただきます

●最先端医療機器の導入

最先端医療機器を導入し、山口県の中核医療機関として、より高度な医療を提供します。

●医療プロフェッショナルの育成

大学病院として医師のみならず事務系職員を含むメディカルスタッフのキャリア形成の支援を行います。

ご寄附についてのお問い合わせは

経営企画課予算管理係 TEL0836-22-2023

病院URL <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/> 山口大学病院 寄附 検索



Governance Financial data

ガバナンス・財務データ



ガバナンス体制の強化に向けた主な取組

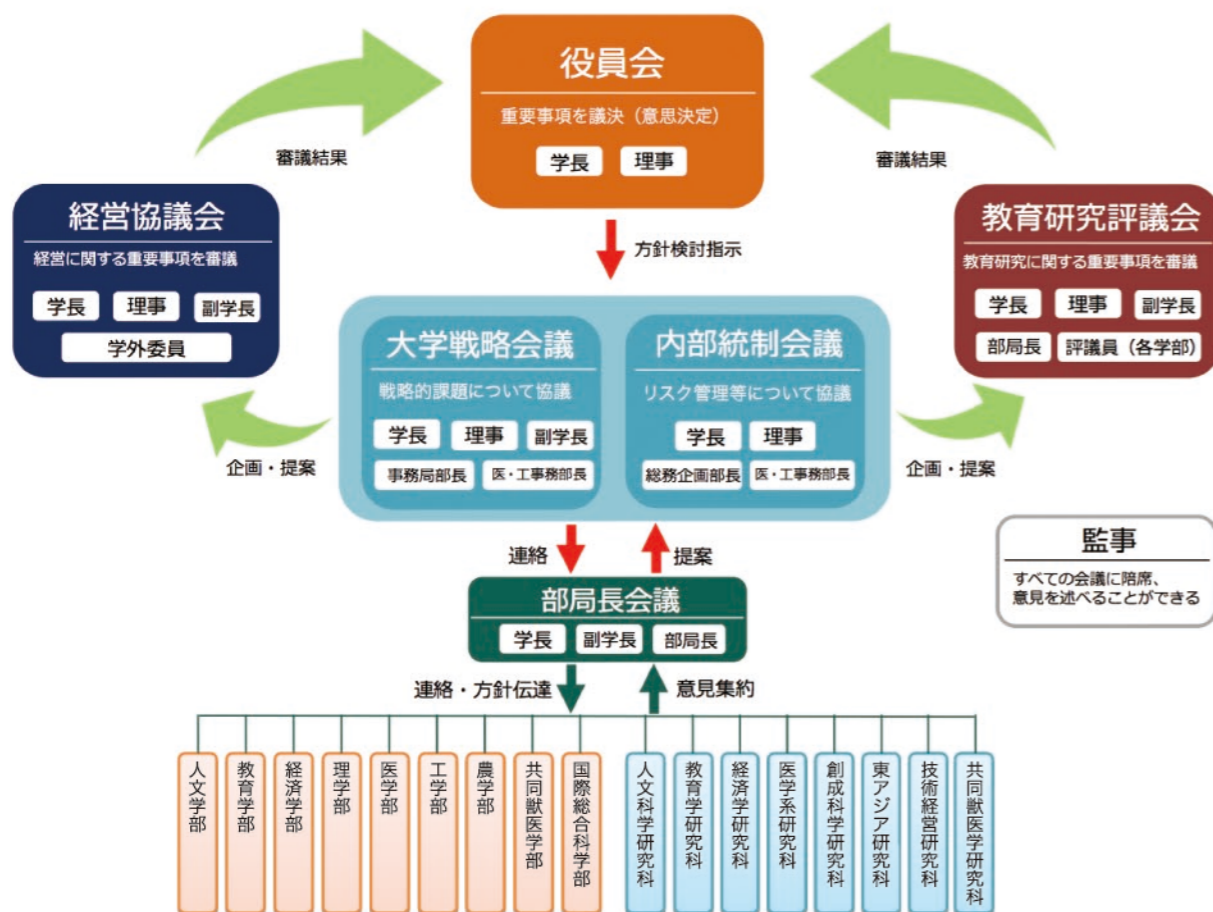
1. 大学戦略会議、内部統制会議の役割の明確化によるガバナンス体制の強化 (2020年度～)

大学を取り巻く環境が日々めまぐるしく変化する中、本学が抱える課題やリスクに迅速に取り組むためには、適切な情報共有とそれをもとにした意思決定の合理化を図る必要があります。このため、一部議題が重複していた「**大学戦略会議(本法人の戦略的課題等を協議)**」と「**内部統制会議(リスク管理等の内部統制にかかる課題を協議)**」について、役割の明確化と会議運営の合理化を行いました。これにより、この2つの会議で**大学戦略(プラス要因の拡大)とリスク管理(マイナス要因の縮小)**に関する執行部としての方針決定を行い、**部局長会議**を通じて周知及び学部意見を集約するという、**トップダウン・ボトムアップ**を含めたガバナンス体制をより明確化し、強化を図りました。

大学戦略会議

各分野からの意見を取り入れられるよう**構成員に副学長、事務局各部長、医学部・工学部事務部長**を追加し、**本学の抱える課題を広く抽出し、基本的な方針、将来構想を柔軟に協議できる体制に再構築**しました。

これにより**戦略を立案・実現する機能を強化**するとともに、本学を適切な方向に導いていく経営人材の養成を図っています。



内部統制会議

国立大学法人山口大学業務方法書に記載する**リスク管理等の内部統制に関する事項に限定し、協議及び情報の共有を行う体制に再構築**しました。

内部監査室と連携し、リスクアセスメントに基づく内部監査計画から内部監査結果及び提言事項まで随時内部統制会議で報告することで、本学が抱えるリスク事項に対する執行部の情報共有及び共通認識を図り、必要な対応や学内の指導・周知を迅速に行う体制を整備しました。これにより、**大学のリスク管理機能及び内部統制機能を強化**しています。

また、2020年3月に策定された「国立大学法人ガバナンス・コード」への適合状況についても内部統制会議で点検し、必要な対応を進めています。

2. 大学戦略担当の理事を配置 (2020年度～)

多様な視点から意見を取り入れることにより**大学の経営力強化**を図るため、**企業経営経験者を大学戦略を担当する理事として新たに配置**しました。資金運用管理委員会の委員長を務めるなど、専門性を活かした大学経営への貢献が期待されます。

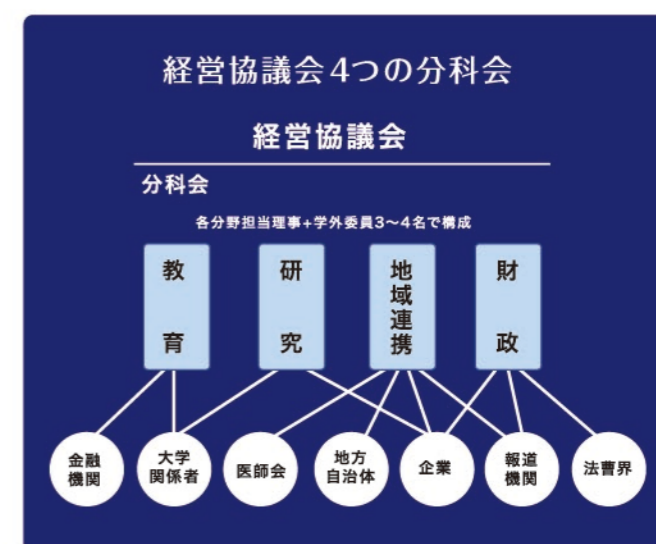
理事の所掌 (2020年度～)



3. 経営協議会分科会の設置 (2019年度～)

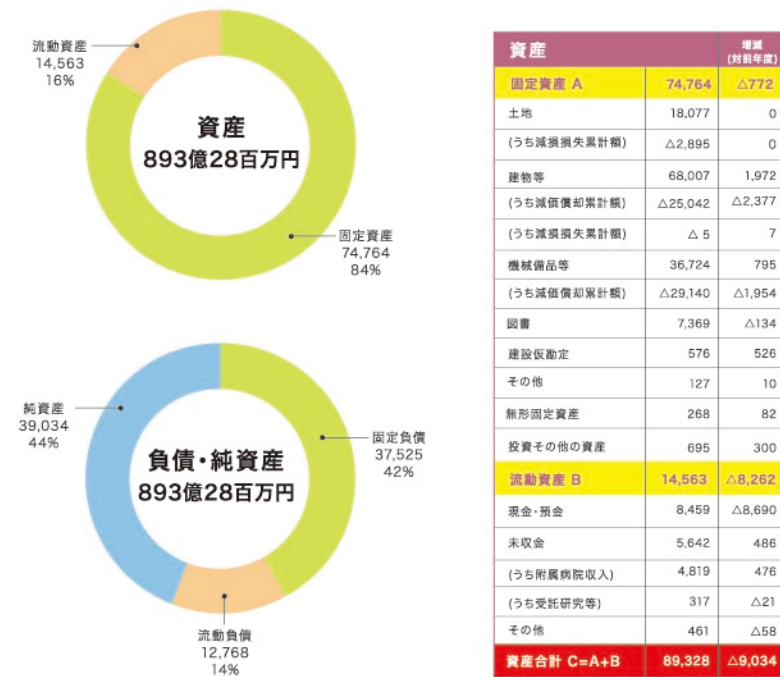
大学経営に関する重要事項を審議する経営協議会は、委員の過半数以上(25人中13人)を学外委員が占めています。学外委員は地域を代表する企業、金融機関、報道機関、法曹界、医師会、大学関係者、地方自治体等を代表する者等で構成し、**多様な視点から大学経営に対する意見や提言を聴取できる体制を構築**しています。

各委員の専門性をより活かすための仕組みとして、**学外委員の専門性に応じて、「教育」、「研究」、「地域連携」及び「財政」にグループ化した分科会を設置**しました。分科会は、各分野で毎回テーマを設定し、理事と学外委員とが深い意見交換を行うことで**経営協議会のアドバイザーボードとして機能し、産業界や地域のニーズ・ノウハウを本学の教育研究に反映するとともに、大学の経営力強化**を図っています。



貸借対照表 (令和元事業年度)

貸借対照表とは、決算日におけるすべての資産・負債・純資産を記載し、財政状態を明らかにするものです。



(単位:百万円,単位未満切り捨てのため,合計は必ずしも一致しません。)

負債		増減 (対前年度)
固定負債 D	37,525	△785
資産見返負債	15,674	265
借入金	19,984	△931
リース債務	△1,079	422
その他	2,946	△543
流動負債 E	12,768	△7,785
運営費交付金債務	200	△113
寄附金債務	3,955	43
前受受託研究費等	282	39
借入金	1,079	200
未払金	6,583	△7,675
その他	667	△279
負債合計 F=D+E	50,293	△8,571

純資産		増減 (対前年度)
純資産合計 G	39,034	△463
資本金	16,222	0
資本剰余金	7,253	269
利益剰余金	15,558	△732
(うち当期未処理損失)	△552	△981
負債・純資産合計 F+G	89,328	△9,034

トピック ~資産取得価格ランキング~

山口大学では教育研究診療活動等に必要さまざまな資産を保有しています。ここでは本学の資産をランキング形式で紹介いたします。

(単位:百万円)

順位	建物名	階数	取得価格
第1位	小串地区新病棟 (A棟)	地上14階・地下1階	19,464
第2位	小串地区 第一病棟	地上10階・地下1階	3,666
第3位	常盤地区 総合研究棟	地上8階	1,752
第4位	小串地区 総合研究棟B	地上6階	1,504
第5位	小串地区 新中央診療棟	地上4階	1,407

本学では病院再開整備事業に着手しており、その象徴として平成30年度に完成した屋上ヘリポートやMRI画像診断が可能な手術室等、国内で最先端の機能を備えた建物です。

194億64百万円

(単位:百万円)

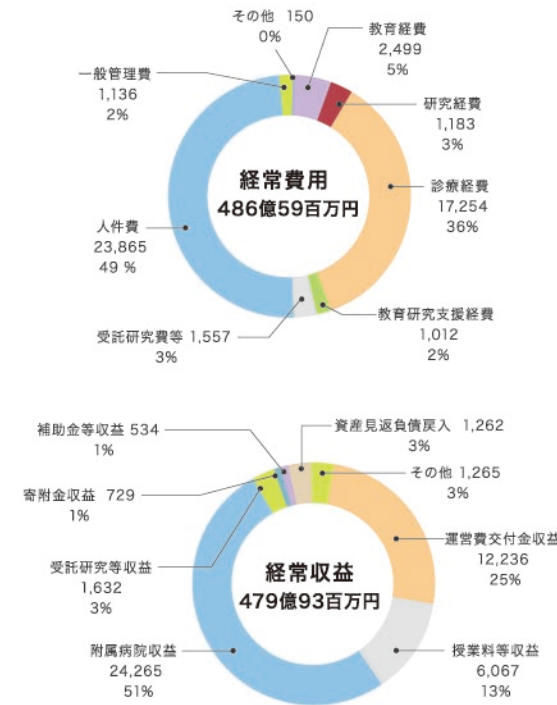
順位	機械備品名	取得価格
第1位	附属病院 放射線治療システム	556
第2位	附属病院 高精度放射線治療システム	525
第3位	メディア基盤センター 電子計算機システム	495
第4位	附属病院 磁気共鳴・X線CT断層撮影システム	477
第5位	附属病院 全身用X線CT診断装置	433

地域におけるがん診療の充実を図るため、汎用性の高い放射線治療システムを平成27年度に整備しました。

5億56百万円

損益計算書 (令和元事業年度)

損益計算書とは、1年間の運営(経営)状況を明らかにするものです。



(単位:百万円,単位未満切り捨てのため,合計は必ずしも一致しません。)

	令和元年度	増減 (対前年度)
経常費用 A	48,659	3,627
教育経費	2,499	78
研究経費	1,183	△84
診療経費	17,254	2,362
教育研究支援経費	1,012	44
受託研究費等	1,557	116
人件費	23,865	1,053
一般管理費	1,136	73
その他	150	△18
経常収益 B	47,993	2,177
運営費交付金収益	12,236	701
授業料等収益	6,067	△14
附属病院収益	24,265	1,384
受託研究等収益	1,632	128
寄附金収益	729	116
補助金等収益	534	△132
資産見返負債戻入	1,262	5
その他	1,265	△12
経常損失 C=B-A	△665	△1,449
臨時損失 D	74	△292
臨時利益 E	7	△3
当期純損失 F=C+E-D	△732	△1,161
目的積立金取崩額 G	179	179
当期総損失 H=F-G	△552	△981

トピック ~教員1人当たりの研究コスト~

国立大学では、国から措置される運営費交付金や自己収入だけでは研究資金が不足するため、様々な外部資金(受託・共同研究等)を獲得することにより、研究資金の拡大に努めています。山口大学においても日々外部資金の獲得に努めていますが、本学の研究は皆様からのご支援により成り立っています。この外部資金を含めた教員1人当たりの年間研究コスト(資金)は以下のとおりです。

教員1人当たりの研究コスト 3,078,746円

※教員1人当たりの研究コスト
 =(研究経費+受託研究費+共同研究費+科学研究費補助金等(直接経費))÷教員数
 ※教員数は1,052名(令和元年5月1日現在)

研究経費	1,183百万円
受託研究費	752百万円
共同研究費	463百万円
科学研究費補助金等(直接経費)	840百万円
研究コスト 合計	3,238百万円

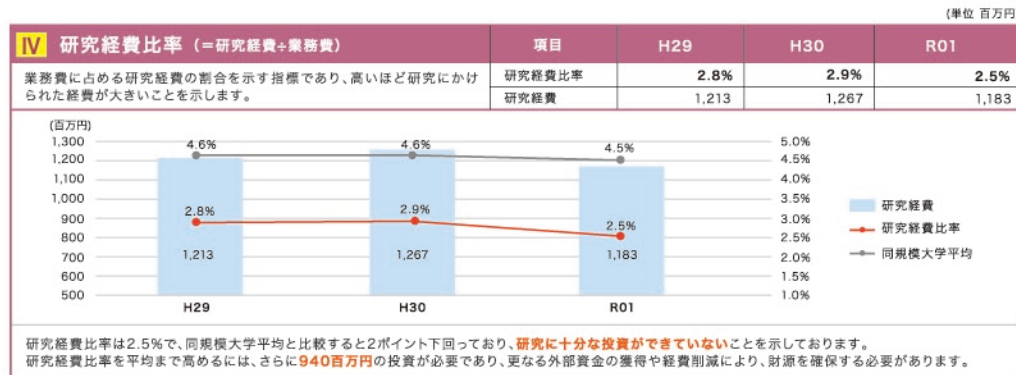
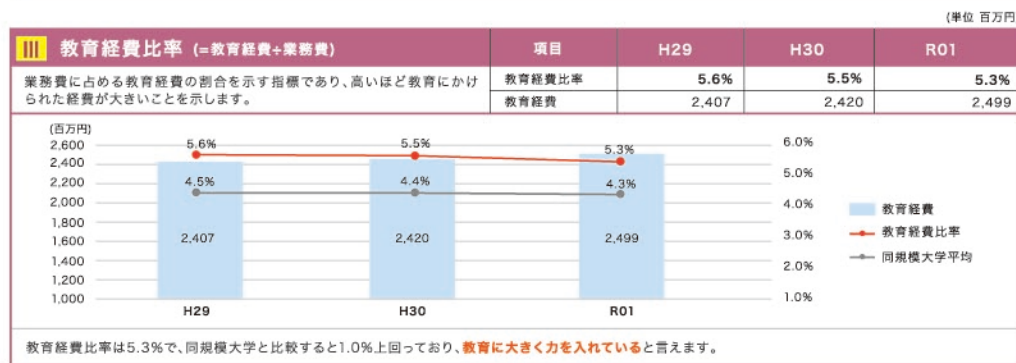
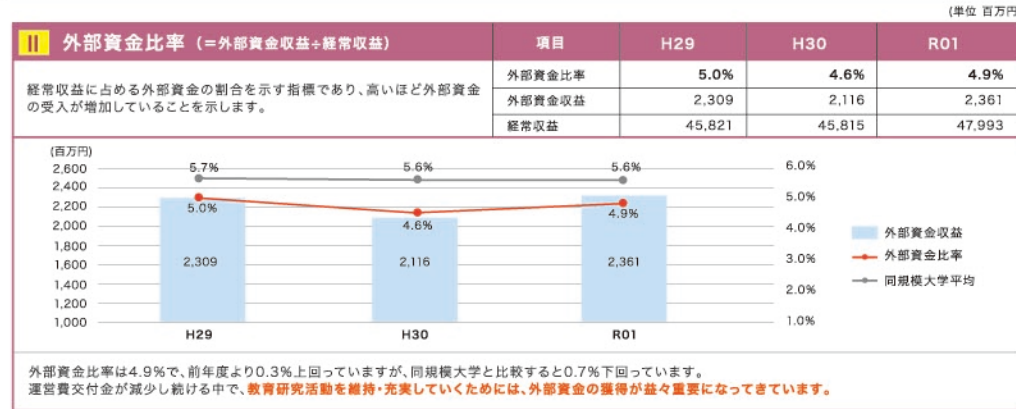
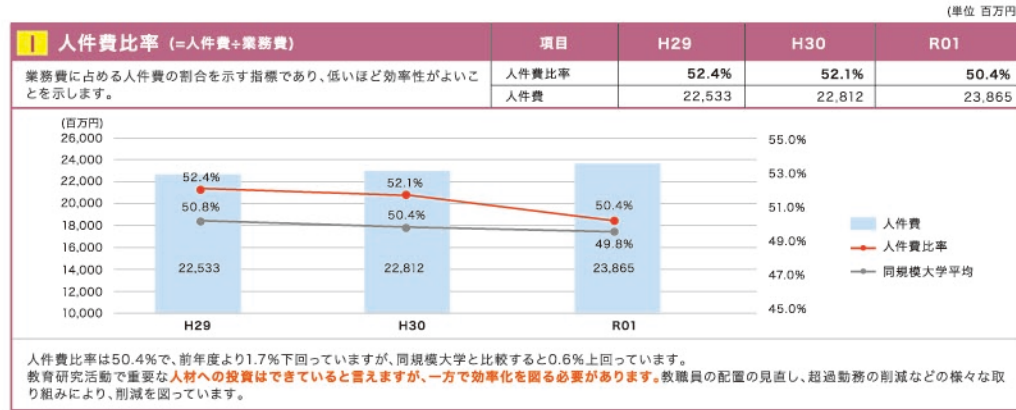
トピック ~地域とのつながり~

山口大学では、外部資金を有効活用することにより得た教育・研究成果を企業や地域に還元し、本学と地域が同時に発展することを目指しています。令和元年度も多大なご支援等をいただきありがとうございました。

県内企業様との受託研究費・共同研究費・受託事業費
受入総額 3億10百万円

県内の皆様、企業様からご支援いただいた寄附金
山口大学基金 寄附総額 15百万円
その他の寄附金 寄附総額 3億31百万円

財務指標 ～同規模大学との比較～



※同規模大学とは、医学系学部及びその他の学部で構成され、学生収容定員1万人以下、学部数10以下の大学を指します。

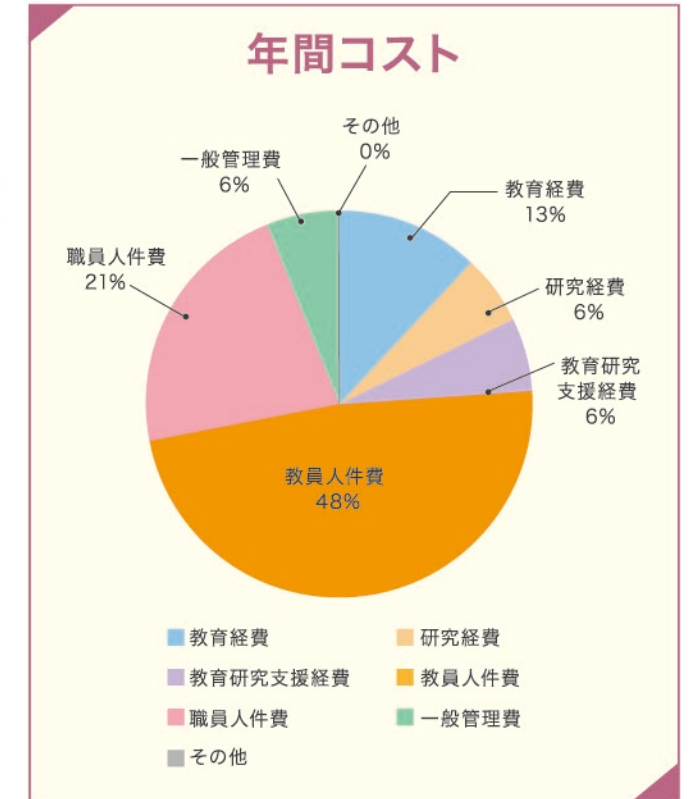
学生1人当たり年間コスト ※病院・附属学校を除く

年間総コスト内訳

教育経費	2,147,243,031 円
研究経費	1,028,965,043 円
教育研究支援経費	1,012,060,855 円
教員人件費	8,240,320,477 円
職員人件費	3,530,803,957 円
一般管理費	969,096,837 円
その他	79,244,811 円
合計	17,007,735,011 円

学生納付金収益内訳

検定料	148,999,000 円
入学金	730,380,000 円
授業料	5,179,068,351 円
合計	6,058,447,351 円



学生1人当たり年間コスト 1,047,042円

病院・附属学校を除く山口大学の教育に係るコスト 10,669,366,558 円を学生数 10,190 人（令和元年5月1日時点）で除した学生1人当たりの年間コストは約105万円になります。学生1人当たりの学納金（検定料、入学金、授業料）約59万円に対し、約1.8倍のコストをかけて教育を実施しています。

教育に係るコスト

教育経費	2,147,243,031 円
教育研究支援経費	674,707,237 円※
教員人件費	5,493,546,985 円※
職員人件費	2,353,869,305 円※
合計	10,669,366,558 円

※教育経費以外の経費については、教育経費、研究経費の比率2：1を参考に、年間総コストに2／3を乗じた額を教育に係るコストとして算定しました。

財務情報の推移

(単位:百万円、単位未満切り捨てのため、合計は必ずしも一致しません。)

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	増減額 (対前年度比)
貸借対照表				
資産の部				
固定資産	64,510	75,536	74,764	△ 772
土地	15,181	15,181	15,181	0
建物等	23,896	43,358	42,959	△ 398
機械器具等	6,823	8,743	7,584	△ 1,159
その他の固定資産	18,608	8,253	9,038	784
流動資産	18,684	22,826	14,563	△ 8,262
現金・預金	12,964	17,150	8,459	△ 8,690
未収金	5,285	5,156	5,642	486
その他の流動資産	433	520	461	△ 58
資産合計	83,195	98,363	89,328	△ 9,034
負債の部				
固定負債	30,040	38,311	37,525	△ 785
資産見返負債	16,013	15,408	15,674	265
借入金	12,260	20,915	19,984	△ 931
その他の固定負債	1,766	1,987	1,866	△ 120
流動負債	14,634	20,553	12,768	△ 7,785
運営費交付金債務	307	314	200	△ 113
未払金	8,944	14,258	6,583	△ 7,675
その他の流動負債	5,381	5,980	5,983	3
負債合計	44,674	58,864	50,293	△ 8,571
純資産の部				
資本金	16,222	16,222	16,222	0
資本剰余金	2,771	6,984	7,253	269
利益剰余金	19,525	16,291	15,558	△ 732
純資産合計	38,520	39,498	39,034	△ 463
負債・純資産合計	83,195	98,363	89,328	△ 9,034
損益計算書				
経常費用	44,220	45,031	48,659	3,627
教育研究経費	4,521	4,655	4,694	38
診療経費	14,338	14,891	17,254	2,362
受託研究費等	1,643	1,441	1,557	116
人件費	22,533	22,812	23,865	1,053
一般管理費	984	1,062	1,136	73
その他の経常費用	199	169	150	△ 18
経常収益	45,821	45,815	47,993	2,177
運営費交付金収益	11,779	11,534	12,236	701
授業料等収益	6,119	6,082	6,067	△ 14
附属病院収益	22,496	22,880	24,265	1,384
受託研究等収益	1,703	1,503	1,632	128
資産見返負債戻入	1,389	1,256	1,262	5
その他の経常収益	2,332	2,557	2,529	△ 28
経常利益	1,601	783	△ 665	△ 1,449
臨時損失	88	366	74	△ 292
臨時利益	7	11	7	△ 3
当期純利益・損失	1,519	428	△ 732	△ 1,161
目的積立金取崩額	0	0	179	179
当期総利益・損失	1,519	428	△ 552	△ 981

損失の処理

国立大学法人に損益計算書上の損失が発生した場合、前期までの積立金を取り崩し、損失を補填しますので経営上影響はありません。
損失補填後の積立金の残額は、翌期以降の損益計算上の損失に備えます。また、積立金を取り崩しても損失を補填できなかった場合、その金額は次期繰越欠損金として処理します。

学部・研究科等別の財務情報(令和元事業年度)

(単位:百万円、単位未満切り捨てのため、合計は必ずしも一致しません。)

区分	人文学部・ 人文科学研究科	教育学部・ 教育学研究科	経済学部・ 経済学研究科	理学部・ 創成科学研究科 (理学系)	医学部・ 医学系研究科	工学部・ 創成科学研究科 (工学系)	農学部・ 創成科学研究科 (農学系)	共同獣医学部・ 共同獣医学研究科
教育研究経費	83	116	238	187	666	628	127	447
受託研究費等	-	11	10	23	442	507	98	53
人件費	543	1,129	836	820	2,094	2,236	459	658
一般管理費	18	29	75	33	146	162	31	40
業務費用計	644	1,286	1,160	1,065	3,351	3,535	716	1,200
運営費交付金収益	361	775	556	547	1,453	1,484	311	487
学生納付金収益	490	506	937	683	834	1,868	294	124
受託研究収益等	-	15	11	26	479	569	114	58
寄附金収益	1	1	19	8	365	81	8	3
補助金等収益	-	-	-	8	87	10	-	-
その他	15	19	76	60	241	226	41	497
業務収益計	868	1,318	1,601	1,334	3,462	4,239	770	1,170

区分	国際総合科学部	東アジア研究科	連合獣医学研究科	技術経営研究科	全学支援組織 (大学情報機構、大学教育機構、 大学研究推進機構、事務局)	附属病院	附属学校
教育研究経費	63	19	11	57	1,540	186	319
診療経費	-	-	-	-	-	17,253	-
受託研究費等	4	-	-	22	198	181	2
人件費	347	44	-	141	2,651	10,826	1,076
一般管理費	9	-	-	5	415	163	3
その他	-	-	-	-	76	71	-
業務費用計	425	64	11	227	4,882	28,683	1,402
運営費交付金収益	305	30	-	124	1,931	2,749	1,116
学生納付金収益	251	22	17	27	-	-	9
附属病院収益	-	-	-	-	-	24,265	-
受託研究収益等	5	-	-	17	131	203	-
寄附金収益	4	-	-	-	109	108	17
補助金等収益	2	-	-	-	74	352	-
その他	8	-	5	4	846	355	124
業務収益計	577	53	23	173	3,093	28,034	1,267

学部・研究科等ごとのセグメント情報に関する主な留意点について

1. 減価償却費の財源別処理(国立大学法人会計基準上の計上方法)

国立大学法人は企業会計と異なり独立採算を前提としておらず、損益均衡を前提とした会計処理を行っています。その一つとして、減価償却費の発生に伴い、減価償却費相当額を収益勘定科目である資産見返戻入に計上することにより収益化し、費用と収益(損益)を均衡させる処理を行っています。附属病院以外では損益を均衡させる対象資産が大半ですが、附属病院ではその対象資産が少なく、結果としてこのことが業務損益に大きな影響を与えることとなります。

2. 学生納付金収益(本学の現時点での計上方法)

授業料等の学生納付金収益は、学生の所属に応じて各部署に振り分けていますが、全学支援組織(教育・学生支援機構)は、授業を実施しているにも関わらず所属する学生がいないため、本来計上すべき収益が計上できていません。

3. 外部資金収益(本学の現時点での計上方法)

受託研究等の外部資金収益は、原則として受入部署で全額収益計上しますが、他部署分担者は当該部署で費用のみを計上するため、収益と費用を計上する部署で差異が生じています。

山口大学の 気になる数字

卒業生・大学院学位 授与者数

日本全国、世界各国の幅広い分野で活躍中

累計 119,346人

2020年3月31日



学生数

10,098人

(うち女子学生 3,764人)

2020年5月1日

(内訳 学部生 8,659人、修士課程 928人、博士課程 429人、専門職学位課程 82人)



教職員数 3,958人

2020年5月1日

教員 1,092人、事務職員 376人、技術職員 76人、医療職員 230人、看護職員 866人、その他職員 105人、非常勤職員 1,213人

起源

2015年に創基 200周年を迎えました

長州藩士・上田鳳陽によって創設された私塾・山口講堂が前身。東京大学・東北大学に次いで日本で3番目に古い国立大学。

面積 総面積は
東京ディズニーランドの2倍以上!!

吉田地区

建物

建面積 54,968㎡

延面積 136,208㎡

土地 **712,896㎡**

小串地区(医学部)

建物

建面積 41,612㎡

延面積 172,452㎡

土地 **123,490㎡**

常盤地区(工学部)

建物

建面積 26,781㎡

延面積 75,419㎡

土地 **144,282㎡**

学部・大学院

9学部

(人文、教育、経済、理、医、工、農、共同獣医学、国際総合科学)

8研究科

(人文科学、教育学、経済学、医学系、創成科学、東アジア、技術経営、共同獣医学)

科学研究費 助成事業

採択数 **482件**

交付金額 **約 9.3 億円**

2020年5月1日



国際交流

協定数 **36カ国・地域
173機関**

外国人留学生数 **388人**

(2020年5月1日現在)

海外派遣学生数 **502人**

(2019年度)



卒業生・修了者の就職状況 (2019年度)

学部

産業別分類	学部	人文	教育	経済	理	医	工	農	国際	全体	
卒業生(人)		169	190	346	204	127	534	99	88	1,757	
進学者・留学者等(人)		5	20	2	106	12	289	36	2	472	
就職者(人)		144	157	291	87	112	221	59	84	1,115	
就職者内訳(%)	建設業	2.1	2.5	3.4	2.3	0.0	23.1	0.0	1.2	6.1	
	製造業	8.3	1.3	14.1	13.8	0.0	25.7	38.9	22.6	14.4	
	情報通信業、運輸業、郵便業	11.8	4.5	16.5	24.2	0.0	14.0	13.6	20.2	12.9	
	卸売・小売業、宿泊業、飲食サービス業	25.0	5.7	15.1	6.9	0.0	2.7	8.5	21.4	10.7	
	金融・保険業	5.6	1.9	12.0	4.6	0.0	0.0	5.1	7.1	5.1	
	医療、福祉	2.1	3.2	3.8	1.1	96.4	0.0	0.0	0.0	2.4	11.3
	教育、学習支援業	7.6	70.1	1.7	23.0	0.0	0.5	0.0	1.2	12.8	
	複合サービス事業、サービス業	20.1	5.7	12.0	13.8	0.0	10.0	11.9	14.3	10.9	
	公務	16.7	3.2	17.6	6.9	3.6	22.6	20.3	4.8	13.5	
	その他	0.7	1.9	3.8	3.4	0.0	1.4	1.7	4.8	2.3	

大学院

産業別分類	研究科	人文科学	教育学 (修士)	教育学 (専門職)	経済学 (修士前期課程)	医学系 (修士前期課程)	技術経営 (専門職)	理工学 (修士後期課程)	創成科学 (修士後期課程)	医学系 (修士後期課程)	東アジア	全体	
修了者(人)		6	23	15	28	393	12	22	3	20	14	551	
進学者・留学者等(人)		0	2	0	1	22	2	1	0	0	0	28	
就職者(人)		5	12	15	20	364	10	17	2	16	13	480	
就職者内訳(%)	建設業	0.0	0.0	0.0	0.0	11.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	8.5	
	製造業	0.0	8.3	0.0	10.0	55.2	20.0	47.1	50.0	37.3	0.0	46.3	
	情報通信業、運輸業、郵便業	0.0	8.3	0.0	0.0	12.9	0.0	17.6	0.0	0.0	0.0	10.6	
	卸売・小売業、宿泊業、飲食サービス業	0.0	0.0	0.0	10.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	
	金融・保険業	0.0	0.0	0.0	10.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	
	医療、福祉	0.0	0.0	0.0	5.0	0.3	60.0	5.9	0.0	0.0	76.9	4.0	
	教育、学習支援業	80.0	58.4	100.0	5.0	3.0	10.0	11.8	0.0	18.8	15.4	66.6	
	複合サービス事業、サービス業	20.0	8.3	0.0	10.0	12.4	10.0	17.6	50.0	31.3	0.0	12.3	
	公務	0.0	16.7	0.0	5.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	2.3
	その他	0.0	0.0	0.0	45.0	2.2	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	16.7	4.0

大学院(全体)

産業別分類	修士・博士前期	博士後期	
修了者(人)	499	52	
進学者・留学者等(人)	28	0	
就職者(人)	443	37	
就職者内訳(%)	建設業	9.0	2.7
	製造業	48.3	21.6
	情報通信業、運輸業、郵便業	11.5	0.0
	卸売・小売業、宿泊業、飲食サービス業	1.1	0.0
	金融・保険業	0.7	0.0
	医療、福祉	2.0	27.1
	教育、学習支援業	9.3	24.3
	複合サービス事業、サービス業	12.0	16.2
	公務	2.3	2.7
	その他	3.8	5.4

- ・医学部医学科、共同獣医学部の学生は含まない。
- ・医学系研究科に関しては、一貫性博士課程は含まない。
- ・「進学者・留学者等」、「就職者」に留学生及び有職者を含む。

「山口大学基金」は、創基200周年記念事業募金を基に、未来を担う学生のチャレンジ精神を後押しするとともに、学生らが安心して修学できるよう、経済的な支援を行うための基金として、2015(平成27)年に創設され、現在も山口大学独自の返済を要しない給付型奨学金「七村奨学金」を始めとする様々な支援を行っています。

七村奨学金は、本学経済学部卒業生である七村守様のご支援により創設した「給付型奨学金」です。経済的理由により修学困難で優秀な学生が安心して勉学に打ち込めるよう、毎年新入生から10名選考し、1人当たり年間63万円を4年又は6年間支援しています。2020年3月には、七村奨学生の第一期生6名が卒業し、様々な分野で頑張っています。

また、2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け学資負担者の家計の急変やアルバイト収入の減により生活に困窮する学生らが安心して学生生活を送れるよう、緊急措置として1億円を原資に「緊急学生生活支援給付型奨学金」を新設し、856名の学生に1人当たり10万円の経済的支援を行いました。

寄附総額 (2020年10月1日現在)
約8億6,680万円



学生への修学支援
(経済的支援)

山口大学独自の給付型奨学金
「七村奨学金」
「緊急学生生活支援給付型奨学金」
私費外国人留学生対象給付型奨学金
授業料の一部支援
海外留学の一部支援

地域連携・
地域貢献活動事業支援

地域交流促進支援
教育研究成果還元活動支援 等

国際交流事業支援

学術交流支援
留学生交流事業支援 等

その他の学生支援

学生の自主的活動への支援
優秀な成績を挙げた課外活動・団体への支援
学生のキャリア教育等への支援 等

教育・研究支援

研究プロジェクト支援
海外派遣支援
学術講演会開催支援 等

2016年から2019年における
支援総額 約1億5,842万円 支援延べ件数 707件

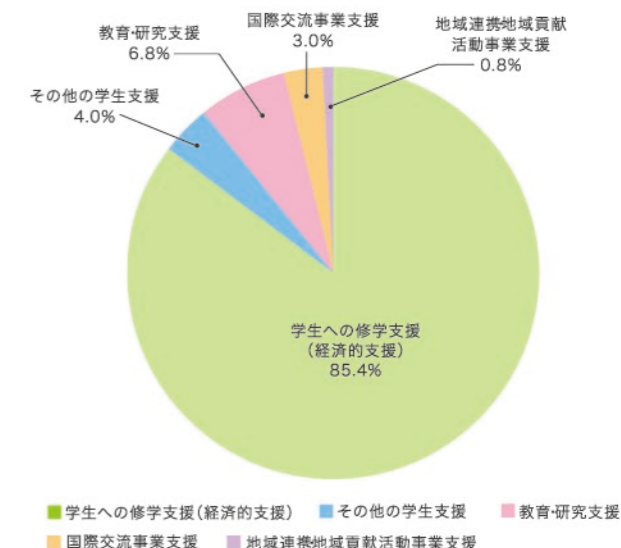
学生への修学支援(経済的支援)
約1億3,530万円
623人

その他の学生支援
約630万円
20団体/件

教育・研究支援
約1,075万円
48人/件

国際交流事業支援
約480万円
6件

地域連携・地域貢献活動事業支援
約127万円
10件



七村奨学生一期生から

私は、家族が難病を患っていたこともあり、七村奨学金の第一期生に選んでいただきました。現在は福岡市立こども病院で働かせていただいております。今でも七村さんとの出会いは私の山口大学生活をとても充実したものにしていただいたと実感しています。



私は入学時より保健学科の助産師コースに入ることを目標に学業に取り組みました。本来ならば、実家を離れ一人暮らしをしている状態で、必死でアルバイトをしないと生活できない状況だったと思います。しかし、七村奨学金の支援のおかげでアルバイトと学業にバランスよく取り組むことができ、目標だった助産師コースに入ることができました。また、私は日ごろから様々な場所・ものに触れ、様々な経験をし、いろんな人と出会いながら多様な価値観を自分の中で育て、心豊かな人間になりたいと思っています。七村さんは、私に大学生活の中でたくさんの経験を余剰を与えてくださっただけでなく、私たち奨学生にたくさんのご自身の経験談(苦労や人生)や心に響く言葉をくださいました。その中でも、「2つのことでも迷っているならば、どちらも正解だ」という言葉は、大学生のころから社会人になった今でも、優柔不断な私の背中をいつも押してくれる言葉になりました。

最後に、七村さんへ、私たちのために奨学金制度を設けていただき心から感謝申し上げます。七村さんのおかげで学業・私生活ともに本当に充実した大学生活を送ることができました。これからは私自身が仕事やボランティア、周りとのつながりを大切にすることを通じて、七村さんのように心豊かに、おもしろい人生を歩んでいきたいと思っています。

(医学部保健学科 2020年3月卒業)

*写真は、「大学時代の友人と」

私は現在、書店で働いています。不慣れなことが多く大変なのはもちろんですが、ずっと興味があった本に関する仕事につくことができて、とてもやりがいを感じています。また、今は販売士の資格取得のための勉強を頑張っています。



七村奨学金の奨学生に選んでいただいたことは、本当に有り難いことでした。金銭的にも精神的にも余裕が生まれ、大学時代に自分がやりたいと思った活動に積極的に取り組むことができました。また、それらの活動のなかで身につけられたことは就職後も生かしていると感じます。今の仕事をしながら、誰かの笑顔のために自分ができることを、という考え方を大切にしています。その気持ちを持ち続け、第一期の七村奨学金奨学生として七村さんにも後輩の奨学生の方たちにも恥じないよう今後も努力していきたいです。

後輩の方たちには、一番に自分の時間を大切にしてほしいと思っています。大学ではサークル活動、バイト、ボランティア、趣味などなんにでもチャレンジするだけの時間と機会があります。もちろん学業第一ですが、四年間という期間を大切に、卒業するときに悔いが残らないよう過ごしてほしいと思っています。

(人文学部 2020年3月卒業)

*写真は、私がテーマを決めてお客様にお勧めしたい本を並べたコーナーです。お客様にとってどうすれば魅力的な売場になるかを考えながら、企画や並べ方を自分で工夫できるのが楽しいです。

山口大学基金へのご支援をよろしくお願いいたします。

山口大学基金 HP
<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/kikin/application.html>



With Everyone

皆様とともに。

これから

これまでも



菖蒲池そばの憩いの場（吉田キャンパス）

